

明治の前半に萌芽した。即同十七年山口高等商業學校の前身たる山口中學校に高等科を併置されたのがはじまりで、明治十九年山口中學校の制を改めて防長教育會が防長の英才教育の爲に山口高等中學を設立した。同二十六年學制の改革で山口高等學校と改稱したが不幸にして明治三十八年二月變革の厄に遭ひ本校は山口高等商業學校の組織になつた。かくて有爲の青年が大學に進學の志を抱き乍らその便を失うて徒に山峽に朽ちはてんとするに至つたので、防長の先輩深く之を歎き、屢々政府に請うて復興を圖り漸くにしてその志を遂げたのが本校である。今や鴻峰の南麓、萬頃の蒼田の一劃に立つ輪奐宏莊なる學園が右に龜山を仰ぎ、前に棋野の清流をへだて、姫山に向ひ、聖代文運の興隆を頌してゐる。本校の完備せる設備中特に異彩のあるのは歴史教室に收藏する約二千點の考古學的陳列品である。その大部分は弘津史文氏の寄贈にかゝり、大正十五年五月 東宮殿下本縣に行啓遊ばされ鶴駕を本校に枉げられた際台覽の榮を忝うしたものである。職員數五五。生徒數四八三

【山口縣師範學校】龜山園の南麓にある。明治五年學制の發布を見るや、縣下小學校教育の統一を計り、教授法の一定を期するため小學校教則掛二名を東京に派しその歸縣と共に明治七年四月山口縣教員養成所を設け、山口明倫館の一部を教場に充て、各地小學校教員を循環招集して授業法を傳習し、山口町小學校の兒童四十名を分けて之に收容した。これは附屬小學校の濫傷である。同十年三月山口

縣師範學校と改稱し修業年限を數次改めて現在の五年とした。又女子師範科、豫備科、講習科農業教員養成所を設ける等學制の改善充實の上に幾多の變遷があつた。現在本科修養年限五ヶ年十五學級、專攻科一ヶ年二學級、二部二ヶ年二學級である。

【山口縣立山口中學校】山口高等商業學校の北隣にある。山口縣の中等教育は舊藩校から變遷發達したもので、廢藩後舊藩主の出資で萩・山口・豊浦・徳山・岩國等に巴城學舎・鴻城學舎・豊浦學舎等の學校が經營された。それを明治十三年以來五中學校と稱し山口中學校を本校とし他を分校とした。ついでこれを五學校とし、此間舊藩主の經營から防長教育會の經營に移し、明治二十八年に至り、山口學校が先づ縣立山口尋常中學校となり、同三十四年現稱に改めたものである。現今本科の學級數二十、補習科は修養年限一ヶ年で二學級ある。

【私立鴻城中學校】龜山の東麓に在る。明治二十二年大谷新二私財を投じて設立し、はじめ鴻城義塾と稱し、主として海軍將校生徒を養成してゐたが、同二十五年以來陸軍科も併置した。この創立當時の歴史を物語るのは、錨に星を重ねた帽章である。明治三十年擴張して中學校に準じ、三十七年現在の位置に校舎を改築し、三十九年七月文部大臣の認可を得て今日に至る。本校には別に夜間授業をす【鴻城實踐中學】が附設してある。大正八年の開校にかゝり、現在は三年までの課程を授業し、本

科へ編入の便宜もあり、縣下唯一の夜間中學であるといふので、晝間就學の便を得ぬ者に勸迎せられてゐる。

【山口國學院】後河原の川沿ひに武家屋敷を思はせる壯大な長屋門がある。門を入れれば山口縣神職會經營の山口國學院で、毛利敬親卿が天保十一年萩に創立せられた凝成館が濫觴で、文久轉治後は鴻峰東麓太神宮の附近に移り五十鈴學館と稱した。明治六年元徳公今の地に校舎敷地を與へられた。長屋門と内庭の^{チカタマノキ}黄心樹とはこの尊い歴史を物語るものである。今は神職養成を本科とし尋常小學校正教員養成を教員科とし、共に修養年限は一ケ年、別に小學校卒業上級學校進學希望者のために豫科を置く、修業年限は一ケ年である。入學資格本科は中學三年修了者、教員科は本院豫科修了者、豫科は高二卒業業者で、本科卒業者には一等司業の資格を無試験檢定で附與する。

【山口縣立山口高等女學校】龜山園の西北、白石に在る。南方は濶然として開け、近來住宅地として發展するところ。はじめ明治二十年創立の當初は私立山口高等女學校と稱し、幾多の變遷後、三十年私立毛利高等女學校と改稱した。當時早間田にあつたのを三十二年轉じて湯田町に移し、三十三年縣に寄附して縣立となり、大正十一年九月現地に新築落成して移轉したものである。大正十一年四月より高等科を設置し、その卒業生に對しては全部無試験檢定で小學校本科正教員の資格を與へてゐる。

本科修業年限五ケ年、本科各學年三學級定員七五〇人。高等科修業年限三ケ年三學級定員一二〇人

【私立中村高等女學校】所在地は今道町、創業は慶應三年、裁縫の教授をしたのがはじまりで、中村裁縫傳習所又中村裁縫女學校など稱し、大正二年文部大臣の認可を得て中村實科高等女學校と稱し、更に大正九年四月現在の組織に改めた。本科の修業年限四ケ年、豫科一ケ年、別に含章女子高等専修學校を併設し、豫科、本科共に修業年限を二ケ年とし講習科を一ケ年として居る。

【私立野田高等女學校】校地は野田神社の神苑に接し、清閑好適の地である。明治十年創立の村尾マツの私立裁縫所が濫觴で、昭和二年修業年限四ケ年の高等女學校とし、別に併置する野村實踐女學校には教員養成部（本科・専科）及び高等専門技藝部が設けてある。

【私立近藤裁縫傳習所】上宇野令水上にある。明治三十六年の開創で、本科及研究科を置き、裁縫及作法を教授する。

【山口女子高等實業學校】湯田驛前の縣立山口高等女學校の跡にあるのが本校で、もと家政女學校と稱したが大正十五年文部大臣の認可を得て現制にかへたもの、本科（三年）實科、専攻科（各一年四ケ月）の別があり、他に仕立科、機織科がある。

【山口縣立育成學校】市外大内村御堀に在り、大内平野の一劃、小高きところにあつて、北に近く農

事試験場を見る。はじめ下關市了圓寺丘道徹の經營せる薰育寮を山口縣感化院に代用せらる。時に明治四十二年三月、ついで四十五年一月縣立感化院を設置し山口縣立育成學校と稱したが、大正元年十一月校地を現地に相し、新築を企畫し大正三年二月に至りて竣工した。創立以來百六十七名の生徒を收容し、現在在校生三十名(定員)、晝夜委託生十八名、計四十八名である。

【山口育兒院】洞春寺の東隣にある。明治三十七年三月十五日洞春寺住職荒川道隆氏の創立にかゝり昭和二年財團法人としたものである。世に惠まること薄き幸多からぬ人の兒を救養し、相當の業を授け自營の道を得させるのが目的で満三才から十二才以下の子供を收容してゐる。現在院兒二十名。九重の雲深き宮廷からは年々御内帑金を御下賜になる。現院舎は昭和大禮の記念として改築し昭和六年落成したものである。

【行啓記念山口縣立山口圖書館】山口圖書館は本邦屈指の地方圖書館で、關西の重鎮である。明治三十六年後河原(現山口縣教育會館敷地)に開館し早くより米國圖書館界の新施設を學び、日本圖書館事業の先驅となつて活躍し、日本に巡回書庫の制度を創始したものである。大正十五年 皇太子殿下本縣に行啓遊ばさるゝや、縣はその記念として、春日山麓に地を卜して、改築の工を始め、昭和三年ジヤーマンセツショ近世獨逸式鐵筋混凝土造三階建、山都に輝く立跡美の現館舎を出現せしめた。然して郷土史料室、

同研究室、講堂、巡回書庫室等特殊室まで装置し、開館以來三十年に垂んとして蒐集する典籍約十萬冊、これは四階建の書庫に充滿する。就中萩明倫館舊藏契沖阿闍梨今井似閑關係國文學寫本、或は郷土史料室收藏の大内毛利氏其他防長關係の古今の圖書記録、萩藩舊記録、山口・小郡兩宰判舊記録の類は學的資料として學徒の一大寶庫と稱せられるものである。尙この郷土史料室によつて防長史談會が設立せられてをり、防長郷土史研究のために力をつくし「防長史學」を發行して居る。又圖書館覽制度、帶出制度は簡易無料で、手續の煩瑣なく、その利用の度は一般帶出、巡回書庫、遠隔地遞送帶出等の諸制度によつて所在地は勿論の事縣下に限なく及んでゐるので、百万縣民はこの近代文化施設の恩惠をあまねく享受しつゝ、この館のあらん限り行啓の聖恩を言ひつぎ語りついで万代に傳へるであらう。

圖書館の後、春日山には先賢堂があり、東隣には博物館がある。この邊りは靜閑の地で、春日山に松籟を愛で、後庭の園池をいつくしみ、窓越しに龜山園を見上げ、三階屋上に登つて五重塔などを遠望するならば、讀書後の疲れは直に消え去り、とみに爽快を覺えるであらう。

【防長先賢堂】は圖書館と共に、行啓記念として建てられたもので、春日山の巨松の間に天平様式の優美な堂宇が見えるのがそれ、防長先賢の靈を鎮め崇敬追慕の誠を捧げると共に、防長二州の後進者

に忠君愛國の精神を振起させる標的たるべく計畫せられたものである。内部構造も天平・平安・桃山の各様式の粹をあつめた純和風の建物ながら、鐵筋混凝土の万代動きなき構造であつて。内面に清楚なる祭壇があり公爵毛利元昭揮毫の「防長先賢之靈」の六字を題せる豎額を安置する。

【大典記念山口縣立教育博物館】明治四十一年 皇太子殿下本縣行啓の盛事あり、此の光榮を記念し奉らんがため防長教育會が市内大殿小路に設置した防長教育博物館を大正御大禮の記念として縣立博物館とし、大正六年八月現地に新築落成したのが本館で、大正九年に増築せられた特別室は舊縣廳舎の一部で、明治四十一年行啓の際 皇太子殿下の御便殿に充てさせられた好箇の記念物である。陳列品は一般科學の研究資料や、貴重なる歴史參考品、縣下各地の考古學的發掘品、動物、礦物其他の標本類等九千七百餘點ある。とりわけ當館で異彩を放つのは、維新記念室であつて、此處には 明治天皇の宸翰寫眞をはじめ、維新の大業に參畫した防長先賢の遺墨や遺物などを多數陳列してあるから、山口を訪ね維新回天の鴻業を回顧せんとする者の一度は杖を曳くべきところであらう。

【櫻圃寺内文庫】は市外宮野村字櫻島、宮野驛の前方にある。元帥寺内正毅伯の遺志により、薨後嗣子が郷里なる舊邸の一部に建設し、故伯の記念として、大正十一年開庫したものである。階上には皇室より賜はりし諸種の貴重品をはじめ伯の勳章、衣劍、諸功臣諸名家の書畫等すべて伯の遺品を陳列し、階下は即圖書館として公開してある。收藏の典籍は伯の手澤の存するものが主であり、和漢書朝鮮本唐本朝鮮古簡牘法帖類支那法帖類等約一万九千餘冊を算する。就中朝鮮本の中には珍書もあり、海印寺に印刷せしめられた大藏經の幾分もある。殊に百五十部の朝鮮古簡牘法帖類に至つては李朝歷代諸王の御筆を始めとし碩儒の遺稿書軸等の中には世上無比の珍重すべきものあり、中には今日朝鮮に於ても見る能はざるものがある。又堆高く積まれし古來の諸大家及維新の功臣志士等の書軸の箱書はすべて伯の筆で、伯の文事に趣味のあつたことも知るに足るものである。文庫の裏には伯が朝鮮慶福宮不顯閣の一部を移し建てられた一字がある。寺内記念館として保存せられ内地には珍しい建物である。

山口聯隊を中心に

市街の北端は陸軍の兵舎、官衙の群るところで、金古會町などは兵隊町とも云つてよい。野田町には【歩兵第廿一旅團司令部】、【山口聯隊區司令部】、【歩兵第四十二聯隊】があり、八幡馬場には【山口憲兵分隊】がある。歩兵第四十二聯隊本部は明治二十九年十二月廣島舊臨時國會議事跡堂に編成せられ、翌年八月此地に轉營し、明治卅一年三月廿四日時の聯隊長歩兵大佐渡邊章を宮中に召され

優渥なる勅語と共に、軍旗を下賜せられ、同廿八日營内で軍旗授與式が行はれた。軍旗の外征に翻つたことは、北清事變・日露役——日露役沙沱子附近の激戦では山口聯隊は極めて悪戦苦闘をし聯隊長堀江不可止大佐は戦死し、部下多数の将卒も或は死に或は傷き文字どほり全滅に陥り戦線には僅に一中尉、一特務曹長と五十餘の下士卒を留めたのみ、全期間を通じて死傷者二千八百餘名、そのうち陣歿者九百五十一名——明治四十四年より大正二年に至る滿洲駐劄・大正八・九年の露領及北滿洲派遣の四度で、軍旗は此等幾多の征戦の武勳を経て、兵煙に焼け、砲弾に破れ僅にモールが纏續するのみである。

聯隊の【射撃場】は市外宮野村字戀路にある。野營及び戦闘射撃には秋吉臺の方面へ屢々行軍する。

兵營の後には【山口衛戍病院】がある。此處はもう宮野村である。病院の東方の廣場は【練兵場】で毎年四五月の候、防長靖献會主催の招魂祭が此處で催され、餘興の山口商工會主催の大競馬は山口名題の行事として、廣く知られてゐる。練兵場北方の高地には【北清事變記念碑】、【寺内元帥墓地】があり、【陸軍墓地】がある。日露の役沙沱子の激戦で戦死した堀江大佐以下多くの陣歿將卒の英靈が祀つてある。初瀬觀音堂下初瀬ヶ原には【招魂社】がある。慶應三年舊山口藩の創立で佐伯武次郎外七志の靈を祀る。何れも四境戦争及明治元年の役に國事に斃れた烈士である。

銀行會社工場

山口市にある銀行は支店ばかりである。古くからあるのは新町にある【百十銀行山口支店】で、はじめ第百十國立銀行と稱し、明治十二年米屋町に開業し翌年下關市へ移轉し、山口を支店とし、明治三十一年今の名に變へたものである。山口縣本金庫事務を取扱ひ、日本銀行の代理店である。西門前・湯田にも支店がある。米屋町にある【日本勸業銀行山口支店】の前身は明治三十一年に設立された防長農工銀行で大正十年に今の様に變へられたのである。この小じんまりした煉瓦造りの建物は大正三年に落成した。

この他には【長周銀行山口支店】と【華浦銀行山口出張所】とがあるのみである。會社は山口市勢要覽に擧げてあるのが二十九ある。この中で市民にお馴染なのは温泉遊園地を經營してゐる【湯田温泉株式會社】と【山口瓦斯株式會社】とであらう。瓦斯會社の煙突と瓦斯タンクとは靜閑都市山口では確に市民の目に印象づけられる存在である。明治四十四年の創業で、今日では一日二万八千立方呎内外の供給量を示してゐる。

煤煙のない街に大工場のあらう譯はない。市役所の帳簿にある工場の數は三十二であるが、一番數

の多いのは印刷所と醸造場とであつて、全工場数の半數を占める。従業者の一番多いのは【山口自動車商會】の四十餘名で、十名以上あるのは十一工場、あとの二十餘工場は従業者が十名にも足りないものである。

山口の市政と其事業

【市廳舎】縣廳所在地であり乍ら、町といふ古めかしい看板をぶら下げてゐたが、昭和四年の春多年の宿願が叶つて「市」といふ看板とかけ換へた。けれどもこの新興山口の總元締の廳舎も一步門を潜れば、大正元年に建てたといふ木造洋風二階建の舊山口町役場時代の建物で、巷説に聽く新道の元吉敷郡役所の趾地へ新築せられるといふのは何時の日のことやら。前は山口銀座中市に面し後は市會議事堂で中河原の清流にそふ。

【市會】現在の市會——市政最初の市會議員選舉は昭和四年五月に施行せられた。定員三十名、立候補四十二名、投票總數四三九一で、棄權率は〇・〇七四であつた。

【市役所】新興山口の執行機關を構成する市長助役以下全職員は六十餘名で、初代市長は市の長老八

木宗十郎氏、現在は第二代目で、名譽職市長條例を設けて就任した白銀市太郎氏である。市政の別働隊には【山口市商工會】、【山口市農會】などがある。何れも市役所内に借家住ひをしてゐる。商工會の前身は明治四十年の實業談話會で後に山口工業會や湯田實業會を今併して今日に及んだものである。

【市の財政】昭和六年度の歳出入豫算は經常臨時部合計で各二十八萬八百七圓である。歳出の中には都市計畫調査費、上水道調査費等の如き、近代都市形態の構成へ踏み出すべき朗かな費目もあれば、口市史編纂費の如き山口文化研究費もある。特別會計共濟資金の歳入豫算は一萬五百六十圓で、公設市場収入の五千六百五十圓がその根幹で、その歳出は公設市場費、同市場債償還費の外は市の社會事業費になる。外に恩賜篤行表彰資金、高田園資金、サベリヨ遺蹟資金、特殊林野營林費、大内義興卿遺蹟資金等がある。市債は現在二十六萬七千八百餘圓あるから、一般會計歳出の約二割近いものが公債償却費に充てられねばならぬ。

市の事業としては次のものが先づ擧げられよう。

【社會的施設】山口市の社會的施設のうちに一番光つてゐるものは【山口市公設市場】であらう。大正十三年二月舊山口町が二萬五千圓の低利資金を借入れ、更に町費繰入五千圓と縣費補助一千圓總額三萬一千圓を特別會計共濟資金に計上して現在の地に九十六坪の上屋を建て、事務所及九ヶ所の常設

店舗と生産者十六ヶ所の土間を設け、尙屋外は露店とし大正十三年十一月一日より開場したが、更に低利資金一萬圓を借受けて七十五坪の店舗を設ける上屋を築造し、大正十五年十二月から百ヶ所の店舗と屋外五十坪の露店がある様になつた。昭和四年市制施行と共に、市公設市場となり昭和五年八月更に擴張し八千六百三十圓を投じて、隣地の土地建物を買収改造して二十五ヶ所の店舗と露店十坪を増設した。自動給水設備と洗場とを設け衛生的施設も整ひ、場所は市の中央にある點からして、市民はもとより近郊の需要者までこの市場を利用する。昭和五年中の賣上金額は四十六萬八千餘圓で毎日百八十人位の出荷者があり、入場者も一日千人位あつて、至極繁昌する。常設店舗は晝夜開店し、その他は午前中の開場である。市場収入は昭和六年の豫算は五千六百五十圓あるが、これに他の収入を加へて一萬五百餘圓のものが市の共済資金となり、市場費、市場公債償却費を支出し、剩餘金は市の社會事業費となつて、貧困者の救助、窮民收容所、托兒所、職業紹介所等の諸費に振向けられるのである。

【山口市救護所】は昭和五年八月烏帽子屋町に開所したもので、公費で救助を受けて居る窮民の生活態様によつてはこゝに收容して救助する。

【市立無料診療所】は昭和五年九月の開所で、救護所と合宿してゐる。無料診療は方面委員や區長の認定を要し、醫療施藥費は市醫師會、赤十字社山口支部病院、市藥劑師會の義捐奉仕によつてなし市費からは一文も出してはゐない。

さて不景氣風に吹きまくられて職を求めつゝある失業市民への對策——山口市の職業紹介事業はどうか？職業紹介所は昭和四年九月に開所して【山口市職業紹介所】と堂々と銘うつて、今のところ社會課の一隅で事務をとつてゐる狀況ではあるが、昭和五年度中求人申込三三三二人、求職申込三四一人、紹介人員一〇九人である。

【教育事業】市の教育費は經常・臨時部合計九萬四千餘圓で市費の三三・七七%を占めてゐる。扱市内には白石・大殿・湯田・良城の四小學校がある。此の在學兒童數三九二六人、之が教職に當る者八二人、兒童一人當りの教育費は二四圓三四錢である。別に山口縣師範學校附屬小學校がある。この在學兒童數は五五三人である。實業補習學校は、白石實業專修學校、良城實業補習學校の二校で生徒數男女合計一五四人、一人當り教育費四七圓一三錢。青年訓練所は四小學校に附設してあつて、その生徒數一七九人、別に鴻城實踐中學を以て鴻城青年訓練所が設けてあるがその生徒は一六〇人である。圖書館は四小學校に文庫が設置してあるが、何れも兒童文庫であるから、一般市民の需要に應ずる程度に至らず、此等は縣立圖書館を利用するのである。

市内にある官公私立の各學校は學藝の山口で述べたが、別に私立の幼稚園が四ヶ所ある。龜山・白石・明星・湯田幼稚園がそれで、園児は合計一八三人である。社會教育施設としては山口市教育會、山口市男女子青年團、山口市體育協會を通じて行ふのが主である。

【保健衛生事業】昭和五年中の法定傳染病患者は一九四人あつた。之を收容する市立傳染病院は本院は烏帽子屋町にあり、分院は吉敷にある。病室數は合計三五。傳染病豫防費、同病院費、衛生諸費に昭和六年度は一萬三千五百餘圓を計上してゐる。山口市立無料診療所についてはすでに述べた通りである。現在山口市民の日々排出する塵芥の量は平均千三百貫であつて年來これを出合川原で露天焼却してゐたが、本年度に於てこれを改良し、焼却釜二個でもつて一日千五百貫焼却出来る様になつた。市内には日本赤十字社山口支部病院がある。これは明治十六年創立ではじめ山口縣病院であつたが大正九年赤十字支部病院となつたもので、内科・外科・耳鼻咽喉科・眼科・産婦人科・小兒科・齒科の七科あつて病床數は二百十ある。

【上下水道事業】上水道 山口市多年の懸案として調査研究中の上水道は、百廿八萬圓を投じて昭和七年度から三年計畫で敷設せられることに決定した。その工事は給水人口五萬を目標とする第一期工事として三萬五千人に給水する設計で、東方便山東部の山地に集る水を、虹橋の下流約一町の地點に満水面積八町二段五畝歩の貯水池を築いて受け、淨水場を木町の西方字齋藤の山腹を穿つて設置し、場内に源水池、濾過池、濾過速度調整室及淨水池を設けるのである。給水區域は市街地一圓と吉敷新町方面までである。

下水道 市街地の排水が不完全なから、大雨の際などは道祖町、石觀音のあたりは家屋に浸水する處もあり、山口驛前、今道町、鰐石町などは街道上膝を没するところもある。此等の排水を兼ね汚水排除のため下水道事業が計畫せられてはゐるが、現在完成してゐるのはその一小部分——石觀音附近に起り市街の東部を南走して上羽坂裏に至り一ノ坂川に合流する幹線と他の三支線があるのみ。

其他特に擧ぐべき事業としては【山口市魚市場】がある。これは大附町にあるが、山口市民及近郊の住民の日々食膳にのぼす魚の集散地で、魚類は萩・仙崎・下關・三田尻・中關・石州等各方面から仕入れ、約八九十人の魚仲買人が出入して毎日これを各戸をまはつてバラまいて歩く。年間の賣上額約十七萬圓で、市が之を設置し請負制度で營業せしめてゐる。此處の起原は相當古く、天保年中以降は西門前、相物小路にあつて代官所の直轄であつたといはれる。

【山口市屠場】 山口市下羽坂。此處では年間六七百頭を屠殺する。明治四年頃一私人の經營しはじめたのに端を發し、今は市營となつてゐる。

厨川千江

鼓の瀧

蝸や寺山見えて瀧未だ

秋風や第一段の飛沫より

水無川

藪椿土橋を架けて水は無く

袖解橋

秋の夜の醫師導く小橋かな

法泉寺鏡の池

山萩や俄かに貝を吹き鳴らす

口缺けの蜷と生れて牙え返る

遊覽の山口

さても山口をとりまく自然の風景はそのまゝ繪であり詩である。山河の姿、温雅の氣象、到處に畫題の小景を見出す。方便山の秀麗、樵野川の清楚、烟に霞む鴻峯、萬戸の麓に浮ぶ龜山など何れも山口の山水美を構成する役割を持たぬはない。又山都にたちこめる湯田の湯の匂ひは遠き昔すでに海外に知られてゐる。此の絢爛たる勝景の地によつて大内氏が居館を構へ街區を京都に模し、内外文化の粹を蒐め西海にその文化を誇つたが、一朝にしてその榮華の夢破れた後もその餘香を社寺堂塔勝地に留め、降つて維新鴻業の策源地としては幾多の志士の活舞臺となりその遺跡遊跡が頗る多い。斯く自然と文化とが諧調した「趣味郷」山口にも現代文化の潮流が滔々として入り込み新景觀を加へ山口の顔貌を一變せしめたが、高邁なる傳統には何のゆるぎもなく依然として山口は自然の郷、懷古の地、趣味の街である。

そこで山口の遊覽地は山であり、水であり、又山水にかゝる遺跡記念地である。ここには人目を眩惑するやうな華麗はない。従つて刺戟に富む近代味は見出し難いかも知れぬが、併し他の追従を許さぬ時代のさびがあり淡々として温雅靜婉、あくどいところは微塵もない。

さて遊覽の山口のトップを行くものは龜山園と湯田温泉とであらう。そこで斯く書き記す山口遊覽地巡りの筆は龜山園に起し順次市中を一周し近郊宮野、大内、小鯖、仁保、平川、大歳の諸村に飛びめぐり、最後に湯田に終つて温泉に浸るのである。しかして史蹟に亘る箇所は多くは「史蹟巡禮」の部に譲つて本篇では取扱はないことをあらかじめ斷つて置く。

【龜山園】龜山は市の中央を稍北によつたところにある小丘で、西に近く鴻峯、東に東山、南に姫山を望み錦川帯の如く脚下を流れ、所謂千本櫻千本柳其岸を護り、温泉郷湯田を煙霞の西に眺め市中の連蔓市外の佳境を一眸に收め得る勝地である。しかして南方に突出する平蓮寺山を龜首とし、北方に連る春日山を龜尾とし、中央六銅像の建つ最高部を龜躰として、遙に遠く之を望めば緑毛の龜の様である。

路順は山口驛より縦走する今市、新町、早間田の町筋を通り抜けると山口縣師範校前に達する。こゝは龜首平蓮寺山の麓である。左に折れ新道に出で、之より登るのが本道で、北方博物館横手から登るのが裏道である。入口まで何れも自動車の便がある。

此處は昔大内盛見朝臣が碧山別墅を營み山僧野客と會して文事に親んだところといはれ、慶長年間毛利秀元卿が居城を築かんとして濠を掘りかけたが、半途にして關原役の敗戦あり毛利氏削封のため、秀元卿は長府に去り、この地は長山城の名のみ留めて永く草木に埋れて居たが、防長士民が明治の維新を翼賛した舊藩主の大忠至誠を永久に記念し、遺徳を景仰追慕するため頌徳銅像を建設し地を拓き奇石を配し花卉を植ゑて規模宏大なる名園となつた。敬親卿以下四支藩主の銅像は明治二十五年十一月起工し同三十三年四月除幕式を行ひ、元徳卿の銅像は同三十五年二月起工し同三十九年十月に除幕式を擧げた。何れも東京砲兵工廠の鑄造で建設賞は約十萬八千餘圓を要した。斯くて銅像建設落成と共に建設者より毛利家一族に贈呈せられ、財團法人として維持保存せられることになつた。【六銅像】は中央最高部廣場にあり、廣場は防長の地形に擬し方位によつてこれを配つてある。

毛利敬親卿（六十七代舊長藩主） 乗馬像、高き二十五尺、銅像高きは乗馬を合して十尺、卿の服裝及馬具は天保十四年四月羽賀臺の閱兵に着用せられし實物に模す。臺石には益田親施、福原元佃、國司親相、清水親知の四大夫の半身隆起銅像を併入する。

毛利元徳卿（六十八代舊長藩主） 乗馬像、高きは敬親卿のものと同じく、服裝は明治元年三月大阪行幸に乗馬扈從せらし時着用の實物に模す。

毛利元周卿（舊長府藩主） 立像、銅像身長八尺、之に臺石の高さを合して二十尺。服裝は維新當時國事周旋の際着用せられし鎧直垂の實物に模す。

毛利元蕃卿（舊徳山藩主）立像、高さ前に同じ、服装は安政五年初めて参内天機を奉伺せし際着用せられし衣冠の實物に模す。

吉川經幹卿（舊岩國藩主）立像、高さ前に同じ、服装は維新當時國事周旋の際着用せられし鎧直垂の實物に模す
毛利元純卿（舊清末藩主）立像、高さ前に同じ、服装は四境の役に石州口防禦總督として出陣の際着用せられし小具足の實物に模す。

この六基の像下に佇んで舊藩主の偉容を仰ぎ宗支親睦し相率ゐて維新回天の偉業に當られし往時をしのぶ時感奮の血自ら湧き心氣とみに改まるを覚えるのである。さてこれより奇松の下をくゞり躑躅の間をわけ石階を南下すると平坦な芝生の廣場がある。突當りの小高きところは平蓮寺山で【日露戦役記念砲臺】がある。これは明治四十一年四月に旅順鷄冠山の砲臺を擬し、二十八珊の白砲を据ゑ、日露戦役を記念し併せて防長出身陸海軍將士の勳績と忠烈とを表せんがため、毛利家一族八家の協同で建設せられたもの、据付けてある大砲や錨鎖等は、陸海軍兩省から寄與せられた同役戦利品である。

砲臺の前芝生の廣場の東隅には維新の功臣【贈正四位周布政之助碑】【贈正四位來島又兵衛碑】の二石碑がある。園中至るところに花木を植ゑ、泉石を配し、池を穿ち、谷をしつらへ、又四阿を設け幽雅限りなく、花は躑躅で知られてゐる。丘上よりの眺望はすこぶるよく、春は櫻に霞み秋は紅葉に映

ゆる山口街が一眸のうちに入る。

明治四十一年 皇太子殿下山口に行啓あらせられ本園に御登臨の光榮があり、大正十五年には

今上天皇陛下が未だ皇太子に在せし時山口に行啓遊ばされ、本園に台臨あらせられ、銅像を御巡覽の上山上より市街を御展望遊ばされた。鶴駕を兩回も奉迎し得て本園の光輝は愈高い。

【春日山公園】春日山は瓢箪状の小丘で、以前春日社があつたところである。防長先賢堂建築に際し、この山を所有者たる毛利公爵以下八家から縣へ無償で借受け、逍遙する徑を開き松樹の間に櫻、楓、杉、躑躅等を栽付けて公園に改修し、南の丘上に六角亭の休憩所を設けた。亭の南下、道路上を横切る丈餘の石橋を渡れば左下に幽邃なる小池を見つゝ、足は直に龜山園に入るのである。北の丘上には天平様式鐵筋混凝土構造の先賢堂があり、園下に輪奐宏莊の圖書館博物館等の建物がある。参道は兩館の間にあつて入口に「行啓記念防長先賢堂」の九字を刻んだ標示石がある。

【香山墓所】香山は市街の正北照見山の麓五重塔で名高い瑠璃光寺と、洞春寺との間にある。公爵毛利家の墓所のある所で、明治天皇の難有き思召で建てられた勅撰銅碑がある。碑面の燦爛、碑銘の莊重、洵に故公の顯榮を千秋に傳ふるものである。又域内には露山堂があり、庭園池水何れも雅趣に富む。

贈從

參謀總長陸軍大將大勳位功二級彰仁親王篆額
故長防國主贈從一位毛利公偉勳銘
公諱敬親字子常姓大江其先出自天穗日命世列卿相弘治中贈從三位元就其
子與備中守隆元奉詔討賊領山陰山陽十餘州公即三位十六世之孫歷事
先帝

一位

今上兩朝出師戡亂爲中興佐命元勳增封陞秩至從二位權大納言明治辛未三月
二十八日薨贈從一位今茲丙申 勅建銅表使臣剛銘焉銘曰

毛利

武臣跋扈 手操國綱 誰辨大義 首倡勤王 外寇出沒 環視四疆 誰畫長策
首修海防 國用窮乏 誰設儲倉 風教衰替 誰開序庠 時哉時哉 天發禎祥
篤生偉人 大來吉亨 天子曰格 重任在卿 公拜稽首 誓答聖明 錦旆一麾
東軍致城 國是一定 殊俗同盟 彼頑而傲 合從連衡 公奮厥武 經營告成
雖則武成 文治未昌 拔才舉傑 薦之廟堂 曰我從政 必也正名 普天王土
義不可攘 乃還版圖 先撤保障 列侯聞風 納地釋兵 五畿八道 東西二京
同文同軌 謳歌洋洋 凡此偉勳 賴公忠貞 賜誅贈爵 煥乎天章 吉敷之郡
香山之塋 勒銘金石 日月爭光

公偉

勳銘

明治二十九年一月

宮中顧問官從三位勳四等文學博士川田剛奉 勅撰
錦雞間祇候正三位勳二等野村素介奉 勅書

【瑠璃光寺五重塔】瑠璃光寺は香山墓所の北隣で、この五重塔は宮島の五重塔と相並んで關西の双壁と稱へられ、これのみでも古都山口の氣分を充分に味ふことが出来る。塔は此の地にもとあつた香積寺の舊物で應永年間の建立であると謂はれ、明治三十六年四月特別保護建造物に指定せられた。檜皮葺初重は廻椽をめぐらし東南方正面にのみ階段がある。軸部四方中央間兩開板扉兩脇間連子窓地覆腰上長押をまはす。屋根のカーブは緩で、軒先に反轉があり、第二重にのみ勾欄を付け各重上層ごとに各軸二尺宛低くし九輪は銅鑄物、總高百尺で今まで六回の修補を経てゐる。後に木町公園があり相共に市街の北部を飾る偉觀である。

【木町公園】五重塔の北丘眺望のよいところを開いて昭和六禮を記念するため小公園としたもので、櫻を植え路を開き五重塔の莊麗を取入れた佳境である。

木町から一ノ坂川の溪流に沿うて谷間を上ると虹橋に達して、畑といふ小盆地が開ける。
【金鶏の瀑】は畑の北奥一ノ坂川の上流の幽谷にある。雄瀑は幅約六間、高さ十八丈、白布を晒した様な瀧の水は岩窟に當つて雪と散る。このあたり風流な庵を岩間にしつらへ觀賞の設備も稍出來てゐる。雌瀑はこれより右に行くこと數町、高さ四丈、その奥の瀑は六丈餘ある。

【二つ堂の梅】春は梅から、その梅の名所は二つ堂を擧げねばなるまい。二つ堂は畑の西隅の小字地

で、方便山の東裾、溪流を挟んで梅の老樹が枝を連ねる。見頃は少し遅いが花時には多数の観賞者がある。

【後河原の櫻と柳】金鷄の瀑や、二つ堂の梅に匂ふ水をあつめて一ノ坂川となつて、市街に入り後河原を流れるあたり、伊勢橋龜山橋の間は清流をはさんで兩岸に櫻が枝を交へ、楊柳巨軀を水に映じ、春は早く柳の緑を飾り、櫻の花時は兩岸の道路は花におほはれ、落花は流水を追うて走る。花時は宵闇迫る頃からぼんぼりに電氣を點じ夜櫻の景色は又格別で千客萬來、夏は緑葉の下に納涼の歩をひき、洵に早春から晩夏にかけて恵まれたところである。

【法界寺の大銀杏】伐れば二本の雌木が泣くといふ、巷の噂を生んでゐる下堅小路、法界寺境内の銀杏の雄木は樹齡すでに四百年、亭々として沖空に聳え一種の異觀である。

【聖フランシスコザベリヨ記念碑】歩兵四十二聯隊營舎の南隣に一區劃の聖域を定め、高さ二十尺の花崗岩の十字架を建て「ザベリヨ遺蹟大道寺碑」と刻み、交叉部に聖師の像をかゝげて、その昔天文年間はるく、万里の波濤を越えて來朝し、日本に基督の福音をはじめて傳へた、ザベリヨ聖師の聖業を記念せんとしたものである。聖師の留錫された大道寺の遺蹟は兵營の敷地内に當るといふのでその隣地へ建碑したもので、大正十五年十月除幕式を舉げた、建碑に畢生の力をつくしたドリオン神父の

胸像も碑の前方に建てゝある。

【雪舟庭、百日紅公園】四十二聯隊から北に少し入つた谷間——市外宮野村字平野——に常榮寺がある。庭園は畫聖雪舟の築造で名高い。常榮寺は妙喜寺の舊地で庭はその遺物、はじめ大内氏別業の庭であつたといふ。面積は千餘坪で周圍の峯巒は悉く庭面に引いて背景とし、最高峰を三呼嶺と呼び、飛泉を揚雲溪、其流を五渡溪、池を無染池といふ。池には孤舟石、鶴島、龜島等が點在する。園に入れば雪舟の畫圖に臨む様で時代を離れた神仙境である。大正十五年二月史蹟名勝に指定せられた。常榮寺の後山には【百日紅公園】がある。山口の狂歌匠食山人徳岡翁の努力で山を拓き三百株の百日紅を此處に集め、炎暑酷熱の際花を賞し綠陰の下に涼風を受け天下一の百日紅園として誇るところである。園中には堂があり木梨男秘藏の毘沙門天を安置する。何れも同男の寄與されたものである。

【古熊公園】國寶建造物たる古熊神社の後山、爪先上りの地形に、梅、櫻、楓の林があり所々に平坦の地が設けてある。梅によく櫻によい。特に櫻花の候は市民遊宴の地と化し絃歌に夜が更ける。

【鴻峰】山口の鎮めの山、靈山とも仰ぐ鴻峯の東麓には高嶺太神宮と稱へ來つた高嶺神社がある。社前を五十鈴の清流が潺々と走り賽者の心氣を洗ふ。頂上には弘治年間大内義長築城の趾がある。三三八米餘の山であるが、市の中央に屹立し中腹から小峯を突出せしめ主峯それを統べて立つ様は巍然た

る大山の相があり、満山翠緑に蔽はれ時に雲烟に隠見する。山腹に巨巖があり岩窟に高嶺稻荷を祀り電氣の常夜燈を點じ夜の山口を靜かに護る。

【法泉寺檜柏】鴻峰の北麓に法泉寺部落がある。大内氏時代の巨利法泉寺の遺跡があり、山門の壇と呼ばれるところに檜柏の老樹がある。根廻り三十一尺餘、根元より三岐して一見三株の如く、一は南方に傾き、一は西方に傾き殆ど地を這ふ所あり、東方のもの、み直立する。この直立せるものは樹勢最も旺盛で技葉繁茂し、目通り周圍十一尺七寸に及ぶ。昭和三年一月十八日天然紀念物に指定せられた。

【木戸公恩澤碑】鴻峯南麓糸米の地にある。公が嘗て此處に居られた緣故で、薨去に當り遺言して舊宅山林を擧げて村民に與へ子弟の學資に充てしめたので、村民はその恩德を感じ祠を建て、祀ると共に、石に刻して後の世に傳へようとしたのがこの碑である。

【權現山、熊野公園】權現山は湯田温泉から北に四、五町距れたところにある百米ばかりの小山で、頂上に熊野神社があり社前の一隅に稻荷社がある。熊野公園はこの山に開かれたもので、櫻樹楓槭を松間に配し小徑を其間に通じ、四阿を置く。狹隘の地ながら眺望が佳い。春は櫻、樹下に柴を焚いて酒をくみ、醉客に賑ふこと古熊公園に伍するところがある。

【兄弟山】鴻峰の西隣に相似の二山が並んで立つのが「おととい山」である。兄の山の頂上に龍王を祀るので龍王山ともいふ。小山なれど兄弟併立の様人目をひき、東方鴻峰權現山の間ごしに遠望するのがよ。

【錦小路頼徳卿の墓と碑】湯田温泉から四五町ばかり西北に赤妻山がある。こゝには元治元年四月二十五日馬關の客舎で

はかなくも三十路の夢はさめてけり赤間關の夏の夜の月

君かためすてむ命のいたつらに露と消えゆくことをしそ思ふ

の辭世を遺して容死した七卿の一人、錦小路頼徳卿の遺骸を葬つたところで墓表がある。三條公の和歌に

思ひきや赤妻山の松陰に君をのこしてかへるべしとは

ひまなくも都の空に通ふらむあかつま山の峰の松風

維新の後、三條公其の他の盡力で、此の地に建てられたのが次の碑である。

贈正四位錦小路君碑銘

右大臣從一位三條實美篆額

京都大學教官加藤熙撰

長茨書

今上踐祚之明年，朝權新復，百廢俱舉，勅復今右府三條公等七人官位，故從四位下大和權介兼右馬頭錦小路君，爲其一。越四年庚午，勅贈正四位，賜祭棗金若干，初君遭癸亥之難，客死長州，未有以表其墓，條公與諸公謀碑之。命文于熙，熙惶悚謝不敏，公曰，當時知錦氏者，莫汝若，汝其勿辭。熙於是再拜奉命，謹誌曰。神州治平日久，積衰不振，米使初來，海內騷然，幕府倉黃失措，國家之事，日多一日，而其能出氣力以身許國如君者，蓋亦鮮矣，方此時，先帝屢下詔旨，勵精圖治，君乃奮然，與條公同心，以恢張國威爲己任，而遂爲幕府所忌，奸黨投隙發兵，遽停君等參朝，且奪長藩禁衛，事生倉猝，無復所戀。長藩兵乃奉君及條公，中納言三條西季知，少將東久世通禧，侍從四條隆謨，修理大夫壬生基修，主水正澤宣嘉，避難於國，追從者數十人，熙亦與焉。實癸亥八月十八日也。既而黨議益熾，誣以不驛，遂貶君等爲庶人。君毫無沮色，與條公及長州侯父子，竊圖回天聰復國威，明年夏君患嘔血，遂以四月二十四日，歿于馬關，享年三十，長州侯葬之周防山口朝妻山，建祠祀之，後三年，朝權復古，條公出贊萬機，諸公皆得顯職，願使君束帶並立，吁喻於朝，其必有爲于今而垂于後者，而君獨留柩遠鄉，吞冤地下，何其不幸也。雖然，朝廷雖其才錄其勳，追贈爵位，祭祀不諼，諸公亦計之不朽，君之業於是乎有光於萬世，君其可以無憾矣。

夫君爲人，忠慨果決，臨事不惑，爲勢不怵，深爲條公所知，流寓之際，且夕言談，所以爲愛者，特在國家而不及其私，將死命加淨衣，東嚮拜手，賦歌數首，其辭哀而其情切，使人感慟，蓋君操持之厚，出于天性，有古忠臣之風云。君諱賴德，字一貫，號翠園，以天保六年乙未四月廿四日生，嘉永四年辛亥叙從五位下，任大和權介，累遷從四位下，兼右馬頭，娶故參議唐橋在久女，生一男二女，男賴言叙從五位上，長女適正五位東久世通暉，次女尙幼。銘曰。

朝妻之巔。瑩兆儼然。犧牲雞卜。且弔且焉。英靈千歲。陟降於天。

明治三年庚子夏四月建

同建人名

- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 從一位 | 三條 實美 | 正二位 | 三條西季知 |
| 從三位 | 東久世通禧 | 正四位 | 壬生 基修 |
| 正四位 | 四條 隆謨 | 正五位 | 土方 久元 |
| 從五位 | 清岡 公張 | 從六位 | 森寺 常德 |
| 從六位 | 尾崎 三郎 | 從六位 | 渡邊 徹 |
| 正七位 | 南部 甕男 | | 黑岩 直方 |
| | 利岡 孝行 | | 丹羽 正庸 |
| 三宅 | 直中 | | 太田 源二 |

【世外井上侯遭難之地】讚井町に世外井上侯遭難之地と刻んだ大石碑がある。揮毫は野村男で、大正六年九月一日建設されたものである。元治のはじめ長藩志士の間で輿論は概ね正義黨と俗論黨とに分れ軋轢を極めてゐた。侯——其頃は井上聞多——は熱心急激な正義黨の中心人物であつたが元治元年九月二十五日山口政事堂で開かれた御前會議に於て純一恭順派の非を論じ、大に武備恭順論を主張し藩論をそれに確立せしめ夜五つ時（今の八時頃）御前を退出しての歸り途、此の地を過る頃反對派の壯士數名に要撃せられて重創を受けたところである。

【鼓の瀑】は湯田の西郊、吉敷瀧河内の龍藏寺境内の西邊にある。上中下三層あつて、上層は五丈二尺、幅は一丈餘で左に向ひ、中層は一丈餘、副八尺右に向ひ、下層は五丈七尺、幅は一丈餘あつて正東に向ふ。瀧山九百九十九谷の水が湊合して瀑布となる、もと千谷あつたが千谷あると大蛇が棲むといふので龍藏寺護摩堂の本尊不動明王が其一を隠して九百九十九谷とせられたといふ傳説がある。

左右及山上には老樹森々として枝を交へ葛藤これに纏綿し、此の間に弘法大師八十八ヶ所があり、高き山に登り低き谷に下り、奇岩大木の間に順拜の道路がある。

【筑紫の瀑】吉敷の赤田神社（四の宮）から桂ヶ嶽をさして登ること約一・五軒のところにある。男瀧は筑紫山より流れて數層に分れ最下層は十米直下し雄大である。女瀧は桂ヶ嶽の麓野口の塘より分れ

五米位の瀧が十餘條も二百米の間につゞき此の兩瀧は五十米の下流で合する。

【小菜の瀑】吉敷の大峠道より西風瀧山をさして五百米登ると小菜の瀧がある。此の瀧は五層に分れ大なるものは幅五米高さ八米あつて水量多く瀧壺が深い。上記三水は吉敷の三瀑とも稱すべきものが後の二者は未だあまり世に知られてゐない。

【方便山】東西の二峰があり、東なるは秀麗富嶽の如く、西なるは剛毅肩を張つた様である。共に防長二州を分ける中國山脈の一支脈の主峯である。

文久三年九月二十一日に、三條公が東久世四條の二卿と與に、土方楠左衛門等を従へ、この山に登つたことがあつた、その時三條公の歌に

鳳翽の山をいかにと人とは、かくとこたへむ言の葉もかな

東方便山は海拔七三・四・二米で吉敷の中尾より登るがよい。遠望する容姿が美しいので、秋冬の候にかけて登山する者が多いが、眺望の佳なるはむしろ西方便山である。

西方便山は海拔七四一・八米で頂上の平坦地には岩石が露出してゐる。吉敷畑から山道を取り油峠を経て登るべく、眺望は頗るよい。登臨すれば山都は眼下にあり、周防の山々は波の起伏する如く西は遙に周防灘をへだて、伊豫豊後の山を望み、關門の地や干珠滿珠の島も見える。北は阿武郡の山々を

こして萩の古城下や波荒き日本海も望まれる。

【鰐石の重岩】かさねいは 山口の南は樫野の支流天神川を境として大内村に連る。象頭山下に鰐石橋がかゝり、北側下手に、神わざか、巨巖二個が相重り、下の巨巖は鰐が大口を開いたのに似、その下に紺碧の水を湛へ頗る奇勝である。

此の邊りは古來螢の名所として聞え、四月二十日は螢合戦で其前後にかけて兩岸は観客で埋る盛況である。

【出合のボート】天神川と仁保川との出合は南に姫山、北に象頭山を眺めて水清き佳境である。夏季は山口の河童連の水泳場として賑ひボートの設備もある。

【福田の外郎屋】鰐石橋を渡れば川向を経て御堀である。ここに山口名物「外郎」の家元福田屋がある。七卿西竄の時三條公等は氷上眞光院へ往復の途次、この外郎屋へ立寄り、またはその後山へ松茸狩に出掛けられたこともあるが、一日主人文吉郎より紅梅の盆栽を三條公に献じた。公は喜んで和歌を詠じて與へ、壬生東久世の兩卿よりも短冊を與へた。

或家に盆栽の梅のさけりけるをこひもとめけるにもちて來りければ

あさひさす山路ののきの梅の花くれなるにこそ匂ひいてけれ

實美

梅 薫 風

そらたきもかほりあひつゝ玉たれのこす吹いるゝ梅の下風

基修

冬 月

さはるへき雲も木陰もなければやあくまですめる冬の夜の月 通禧

こんなことを偲んで店先に腰うちかけ、澁茶をすゝつて外郎の古典味を賞してゐると、前の街道の松並木の彼方から雲助のかけ聲勇しく駕籠が近寄つて來さうな氣配がする。併これは昔のこと今は三山間省營バスが引ききりなしに砂塵をまくつて突ツ走る。

【今山の三本松】大内村問田、小野、平川村吉田の三部落に跨る山が今山でその北面に日本北面三藥師の一に數へられる多聞寺がある。舊山門前の平坦地に古成層の露頭が二十坪ばかり突起して居るが此の巖上に二本の老松——三本あつたが一本は焼けてなくなつた——が相寄り、巨枝を兩村に擴げて峯越しの風に千古の清籟をたててゐる。

【鳴瀧】三山間省營バス沿線小鯖村字鳴瀧に防長五利の一の泰雲寺がある。その東方に瀧があつて鳴瀧といふ。三つの瀧よりなり最下流にあるのは高さ三十尺、急傾斜の巖磐を奔つて鳴動する。上流六七町の間二つ瀧三つ瀧がある。流域急峻の山に花崗岩重疊屏立し宛然畫圖の如しである。昭和三年

山間部落に通ずる道路を改修して花木を植えた。

【美山岐松】小鯖村鯖山隧道の入口に近く美山岐松がある。明治十八年 天皇陛下山口行幸の際、鯖山峠を馬上にて御通過遊ばされ此處で御乗換のため暫時御駐輦になつた盛事を後の世に傳へんとして里人松を栽る碑を建てたのがこれである。

【鯖山隧道】吉敷佐波兩郡に跨る鯖山峠を明治十九年工學博士植木平之丞氏の設計監督によつて、貫通せしめた。延長二百八十一間、幅員二間。

【犬鳴瀑】仁保村大字上郷にある。高さ約五丈、二層になつてゐる。昔一人の行脚僧がこの瀑壺に落ちて死んだが、携へて居た犬が號泣して主人のあとを追つて飛びこんで殉したと傳へられてゐる。

【浅地瀑】仁保村大字中郷にある。

【重石】^{ヂウ}仁保村大字下郷字小高野の山中にある。奇巖峭立恰も四個の箱を重ねた様である。

【平川村の大杉】山口の南郊は榎野の南岸に後に山を負ひ北面して展開する平川村で、湯田驛より十餘町南行したところが字吉田、大杉は同所荒神山の北麓にある。遠望すれば鬱蒼たる小山の如く、近よれば樹幹は恰も敷本の老杉が接着融合して一本になつた様な奇觀を呈し、根本に洞穴がある。本樹は同所鎮座平清水八幡宮（本殿は國寶）の所有で昭和三年一月十八日天然記念物に指定せられた。

【寺内公園】所在地は平川村平井、かの姿、呼び名も美しい傳説の山——姫山の西麓で、嘉永五年春二月呱呱の聲を擧げた寺内正毅伯の誕生地に、大正十年里民相はかつて「元帥伯爵寺内正毅君誕生之地」の碑を建て、改修して公園としたところである。

【大蔵村競馬場】大蔵村字矢原、湯田驛の南方、榎野川の北岸、秋穂渡、石津二橋の間に大廣原がある。こゝは吉敷郡山口市産馬畜産組合が優勝馬投票競馬場として昭和二年に開場したもので春秋二回の競馬期には多數ファンを吞吐するところである。

さても龜山園を振出しに、山口及近郊の名所遊覽地を經巡つて、足は再び山口に入り湯の香たゞよふ湯田町に着いた。湯田は七卿滞在の遺跡としても名高い。その遺跡は今遊園懷古の地に改修せられて高田園と名づけてある。

【高田園】—井上侯舊邸、高田御殿、何遠亭、七卿遺蹟之碑—高田園は湯田驛の前方、湯田下市に在る。文久三年七卿湯田に入らるゝや、長藩主は井上五郎三郎の邸を借上げ、更に一室を増築して三條公を迎へた。井上五郎三郎とは後の侯爵井上馨の實兄である。元治元年五月八日三條公が此處へ轉居以來、地名をとつて【高田御殿】と稱し、増築の新室を【何遠亭】と呼んだ。其後高田御殿の敷地全部が井上侯爵の舊邸趾として小公園に改修せられ、園中に馨侯の銅像を建て【井上公園】とした。

其後七卿遺蹟記念の議が起り、大正十一年遺蹟保存會が組織せられ三万八千九百餘圓の資を以て、井上公園北隣の地を卜し【七卿遺蹟之碑】を建て庭園を築き、大正十五年十一月十一日閑院宮殿下の台臨を仰いで除幕式を擧げた。碑文は次の通りである。

七卿遺蹟之碑

元帥陸軍大將大勳位功二級載仁親王篆額

嘉永安政之際外事多端國論未定而德川幕府不待 勅允與歐米諸國締結條約海內騷然方是時祖父敬親大倡尊 王攘夷之說公卿多贊其議而三條中納言等七卿爲之首遂有大和行幸之詔既而 朝議遽變停七卿參朝免長藩宮門警備時文久三年八月十八日也七卿者中納言三條實美中納言三條西季知左近衛少將東久世通禧修理大夫壬生基修侍從四條隆調右馬頭錦小路賴德主水正澤宣嘉是也七卿與長藩皆愕然不知所出詣鷹司關白邸問 朝議所在而不得要領退入妙法院衆曰與其坐待不測之禍不若奔爲後日之圖七卿乃決意來投長藩居防府後移山口又轉長府慶應元年正月更赴筑前留長藩者凡一年有半此間澤卿去錦小路卿逝五卿盡忠之念愈深憂國之情時溢於詞章於是闔藩益奮起天下響應遂開中興之氣運翼贊維新之功業可謂偉矣頃日防長有志胥謀卜地於山口湯田高田殿址北隣建碑以傳其遺蹟蓋七卿遺蹟散在防長各地而高田殿爲三條卿修築充其寓者他諸卿亦常集議國事于此則遺蹟中最足傳者歟有志者囑予以碑文予

父祖與七卿同盡瘁國事義不可辭仍記其概要以與焉

大正十四年一月

正二位勳二等 公爵 毛利元昭撰

從二位勳一等 男爵 野村素介書

昭和二年八月井上公園と合併し、高田園と命名され、山口市（當時は町）の管理に移つた。山口に遊び、湯田温泉に浴みする旅人多くはこの園を訪ねて、碑の前に佇み、先賢艱苦のあとを追懐して去るのである。

【湯田温泉】湯田温泉については、その起源を物語る傳説もあり、語るべき歴史も相當にあるが、その記述はそれ／＼その部に譲るとして、さて、湯田はその名から云つても、湯には關係があり、全く温泉によつて成長し發展したところである。

温泉は湯屋川（錦川）に跨る方敷町の地域の沖積層の間より湧出し、泉帯は北東北より南西南にわたる自然川帯をなし、泉幅は明ではないが、廣い處は約百三十米はあるやうである。定泉に屬し不斷湧出してゐる。其量も季節によつて相違はあるが、大體一分間十立より六立の間で、かなり豊富な量であつて、この泉より吸み出してゐる孔数は十數孔で現今の湯田温泉なるものを形作つてゐるのであ

る。温度は最高攝氏七六度、最低四八度、縣下各温泉中最も温度が高い。外觀は無色透明で別に異臭なく、稍鹹味を有し弱アルカリ性の反應を呈する鹽類泉である。その含有物質は遊離及び半抱合炭酸、クロールアルミニウム、硫酸アルミニウム、重炭酸マグネシウム、クロールナトリウム、重炭酸カルシウム、燐酸、硅酸、鐵等で古來治病に利用せられ、遠來の湯治客も尠くない。醫學的効能は腦神經衰弱、肋膜炎後胎病、婦人病、慢性胃腸疾患、貧血症、神經痛、リウマチス、寄生性及非寄生性皮膚病、火傷、凍傷、生殖器諸病等である。現今温泉によつて公衆浴場や旅館を經營し、旅館は料理屋を兼營してゐる。山口湯田に來る遊子、大内文化のあとをさぐり、或は維新の史蹟、市内外の名所遊覽地をめぐつて後、この温泉に浴し、淺酌低唱、以て盛んに温泉氣分を味ひ、優婉なる情趣にふけるのも亦格別である。湯田温泉は天下の奇勝秋芳洞と長門峽とを結ぶ中央にあつて、何れへも三十分で達するので兩者探勝の最も便利な出發點であり、同時に又その勞を温泉に慰すべき絶好の歸着點である。

公衆浴場 野原温泉場、ラヂウム温泉、福田湯、湯田温泉株式會社

湯田街の西北は湯田遊廓で青樓の軒をならべるころ、温泉の傳説に「昔、大内義興の時代に、一匹の老狐が毎夜或る寺の小池に來て、足を浸して居るのを見て、温泉であることを發見したげな、これがその起源であるさうな」と云はれて居るが、その子孫であるかどうかは知らぬが尻尾のない温泉狐

は今日も澤山居て、媚を賣り、絃歌艶めかしく、嫖客にかしづく。しかして遊興はこの一廓でせられるばかりでなく、主として温泉旅館でせられるから、所謂湯屋町、湯の香の立籠る限りの地は温泉情緒で充たされるのである。

【湯田温泉株式會社】山口新名所の一となつた温泉會社は、山峽都市山口を飾る人工美、山口遊園地としては屈指のところであらう。會社は昭和四年に設立されたもので資本金は三十五萬圓である。松田屋旅館の東隣の沃野をつぶして温泉遊園地を經營し、中央に廣い池を掘り、中に島を築き樹を植ゑ四阿を建て、休憩所を處々に設け、橋をかけ、ボートを浮べて遊覽、逍遙に供し、池の傍に瀟洒な鐵筋混凝土三階建の温泉場が設けてある。この中に縦二十一尺横十一尺の千人風呂といはれる大浴槽が男女二ヶ所ある。又瀑湯があり、二階には休憩所、餘興場があり、三階は夏季納涼場、平素は展望遊覽場としてある。特別浴場、家族浴場は別の和風建物の中にある。築山には溪流を設け、樹木の間には風流をこらした家が十棟あるが、これは貸間である。池の周圍には和洋食堂、簡易食堂、撞球場、娯樂場、理髮・結髮場、按摩等の諸設備が整ひ、賣店があり各種名産、土産品まで揃へてゐる。宵闇迫れば、池をめぐる周圍の温泉場、賣店などの電飾が池水に映じて情趣をまし宛然浮城の觀がある。

名物評判記

小川五郎 著



山口民謡

湯田二題

粹な唄だよ
ひろい湯槽に

湯汲みの唄だ
あれさ、裸づれ。

山は雪解だ
二月筈

えるは草だ
あれさ、湯の香。

豊後石

石だ石だよ
石が泣くそな

豊後石ア石だ
あれさ、しほらしさ。

祇園祭二題

祭だ祭
いきな裸坊だよ

夏祭来たぞ
あれさ、締だすき。

かつぐ神輿だ
揉んだ揉め揉め

荒神さまだ
あれさ、心意氣。

小川五郎 作詞

祇園祭

薫風やはつかに揺つて鷺と舞ひ

饅頭石

掌の土塊とこそ冴えにけれ

今春塚とゴウさまの墓

齒の男神腫物の女神しぐれけり

福部童子

ちちろ虫旅の童子に薬煮る

築山の元教墓

もの狂ひ鼓打ち行く今日も凍て

長谷観音

春の雲観音となり降りにけり

山口名物と云へば直ぐ食ひ物を聯想して貰つては困るね、「趣味の山口」と題する以上豈敢て山口名物を饅頭や外郎に限らんやである。食ひ意地の張つて居る人は匆々に退却せられたがよい。先づこゝろ一言謝つて置いて儲そろく、「山口名物評判記」を御披露に及ぶとしよう。東西く。

名物と一概に云つてもそう簡単に片づく代物許でもない。山口の盛名嘗てはぼるちゆがる、ひすばにやの遠きに迄轟き渡つて居た程だから山口名物の數々も恐らく「みかどの都」は申すに及ばず唐天竺から南蠻伴天連の國々迄も或ひは褒賞讚美せられて居たかも知れぬ。それが證據には朝鮮人の書いた古い日本案内記「海東諸國記」の一頁に「周防州産荷葉綠、有溫井」とあつたり、「毛吹草」には「二月筍」のこと等見えて居る。溫泉は名物ぢやなくて名所ぢや血迷うにも程があると苦情が出そうならこれ丈は綺麗さつぱりお湯に流しても結構である。そこでいよゝゝ人氣役者の顔見世を初めることにする。しかも大寫小寫取交せてお目にかけることにする。

先づ第一に現れ出ましたのは、天下の學者好書家が垂涎もただならないと云はれる大内文化の象徴「大内本」一に又「山口本」と呼ばれるものである。藤原貞幹と云ふ考證學者の「好古日録」と云ふ書物の中に「老人雜話曰、大内介ハ西國一ノ大名ナリシ、周防山口ノ城ニ居ル、紙ヲ大明ヘ遣シ、書物ヲ摺セテ取寄ケリ、今ニ至リテ有リ、山口本トモ大内本トモ云」と記してある。「紙ヲ大明ヘ遣シテ

云々」は研究の結果どうも眉唾ものであつてやはり日本で印刷したものと考へられる。果して山口で印刷したか、それとも他處で印刷したのかそこまでは未だ詮索が行届いて居らぬ。しかし書物の跋に「明應癸丑周陽眞樂軒新鏤板」とあつたり「豈天文八年己亥春三月日正四位下太宰大貳兼兵部權大輔周防介臣多々良朝臣義隆」の跋文がある「三韻一覽」と云ふ書物等を見ると、山口の名物だと云つても敢てひいきのひき倒しでもなさそうである。後者「三韻一覽」のことを「毛吹草」と云ふ書物には「香積寺三重韻」と云つて居る。今も岩國横山の永興寺にはその貴重なる一冊を藏して居る。大内氏時代に刊行した書物はこの他尙數部のものが擧げられて居るがそうした研究めいたことはもうどうでもよからう。たゞ最後に一言してをくのは最近東京のさる古本屋に出た大内本「孟子」に「日本國王之印」と云ふ大内氏使用印が押してあつたものがなんでも千五百とか二千五百圓で直ちに賣れたそうな。せいゝ大内本でも堀出して成金になられたがよからう。

尙山口圖書館が藏して居る氷上山興隆寺舊藏の法華經版本はこの大内本の先驅をなし山口の印刷文化の爲に大いに氣を吐く日本でも著名な遺物である。山口の印刷屋たるもの大いに振はざるべからずである。くだらぬ組合規約を作つて自縛自縛の窮地に入り山口文化を沈滞させることは速かに止めて貰ひたいものである。慶應年間に作つた活字本の「山口本」は蓋しこの中世大内本の二世であるといふへよう。ともかく「やあやあ遠からん者は音にも聞け近くばよつて目にも見よかく申す拙者印刷文化左工門奴は山口殿とは切つても切られぬ腐れ縁でゑる」と大見得を切る處である。

お次に罷り出たのは山口工藝文化の尖端を切つた品々でゑる。曰く大内金欄、大内菱金欄、義隆金欄、曰く茜染、紫染、結鹿子等染物屋の一統、曰く大内椀、大内盆、雪舟盆、扱はその後裔山口椀に山口盆の面々、是をひつくるめて大内塗と名乗る一群である。更に之に小荷駄の荷鞍を加へ、可樂人形を入れ更にモダン山口の工藝界を代表するサンガラス、竹細工、宮野の松緑焼、大内人形に農民藝術と銘打つた郷土人形を合すれば正に山口工藝品オンパレードと題することが出来るであらう。そして今更山口を消費都市から生産都市へ、カレツジタウンから工業都市へと云ふ野暮臭ひ標語や宣傳でもあるまいやうである。だが遺憾なことには古典山口の工藝は大内氏時代の遠い、昔の夢でそれが一つも今日に傳つて居ない上に近代山口の工藝なるものが又頗る振はざるのである。手品ではないがその種をお目にかけて清鑑を仰ぐ筈である。

大内時代に山口で染織工藝が盛んに行はれたことは一種の傳説に屬する。金欄のことは「雅遊漫録」に「紫染」のことは「毛吹草」と云ふ書物にそれぞれ見えるのであるが、二書共徳川時代の著作であるから史實的證據にはならない。しかし大内壁書延徳二年三月廿六日「當町あしたや次郎太郎所宛重

幸弘途連署」状に「染殿屋孫左衛門」の名が見え又茜染のことも確かな古文書があつて「染職」に關することが書いてあるので眞實である。尤もこれも大内時代の古文書ではない。糸米小路もとは糸殿小路で織屋があつたと云ひ、大附は大菅の訛でこの附近の畠に昔は盛んに茜を栽培して居たと傳へられて居る。

塗物工業は不振の山口工藝界を正に指導して居るものである。但し今の大内塗は山口の學者故近藤清石翁の考證工夫によつて新に興されたもので云へば近代大内塗である。古い大内塗のことは唯記録に残つて居るにすぎない。それを見るところ書いてある。「大内盆、朱漆、縁菱金箔、菊、ヒガキ黄漆」「大内盆、材栗、圓形表漆不詳。朱青漆及白蜜陀を以て精細の模様をすきまなく書く、裏木地スリ漆、裏を見ざれば全く支那物の如し」「雪舟盆、黒漆圓形、足胡桃、面に種々の物を朱漆にて畫かく」。最近山口の某氏の手から弘津史文氏の所藏に歸した方形四脚盆は裏に「奉寄附氷上山楞嚴講御□□□□、施入權小僧都宥淳、文明十年□□□□」と銘文があるが或ひはこれらも大内盆の一種ではないかと考へて見たが確實なことは勿論云へない。山口盆、或は山口椀と云はれるのは一に又後河原椀等とも云はれ、これは藩政時代頃山口の後河原で藩の公廨常用具として専ら製作せられたものである。一説に大内椀の遺風を繼ぐもので椀の粗製品は黒漆の上に錫粉を用ひて小さき櫻花や水珠を畫き

輪廊中に十二支文字を配するが上等品になると畫文様である。古風なものは更に大内椀雪舟盆等の畫文様をうつして朱漆、青漆、黄漆、白密陀で花等を描畫して居ると云はれる。昔は製作中々盛んだつたと見えて「風土注進案」と云ふ書物には「椀類凡壹萬四千五百人前、此代銀凡貳拾八貫四百貳拾目、内拾七貫目漆木地代、殘拾壹貫四百貳拾目手取、吸物椀凡三萬三千七百七人前、此代銀貳拾九貫八百八拾目、内拾八貫目漆木地代。殘拾貳貫八百八拾目手取」とある。

小荷駄荷鞍は屢々引用した「毛吹草」に見える處である。

山口で子供に會つて「何處へゆくんですか」とでも問はうものなら早速「どこ／＼堂の前の鍛冶屋の婆さ方へ」とびしやりと一本たゝかれるのであるが、その童謡にもある堂の前は昔は有名な鍛冶工業地帯であつたのだ。仁王と云ふ刀鍛冶の家柄がこゝに住んで大内時代には盛んに名刀を鍛へて居たと云はれて居る。後世の長門鐔と共にこれは日本工藝史の一頁を飾り得るものであらう。但し今ある××鐵工所をその仁王の子孫遠裔だと考へるならとんだ錯覺である。仁王家の者は既に遠いゝとんとん昔に「どこ／＼堂の前」から何處かへ雲隠れしてしまつたのであるから。今更どうにもならないことであるのだ。

次にはいさゝか評判倒れにして居る八幡焼である。元山口高等商業學校長横地石太郎氏の説による

と山口で俗に八幡焼と云つて居るのはそうぢやなくて實は九州邊のさる窯のものだとの話、現に民藝研究の權威柳宗悅氏はそれを製作した老翁と親しく語つたと云つて居る。さすが大家の近藤清石翁も嚴然たる事實の前には胃をぬがれなくてはならぬだろう。こう事實が判然してみると山口博物館の陳列棚に堂々と「八幡焼」の名を冠して陳列して置くのはちと問題ではあるまいか。傳説の豊後石ではないが九州が戀しいと云つて泣き出して今様豊後石、博物館七不思議ができるかも知れませんな。併し八幡焼が絶対に無かつたとは云へない。何故ならば今に豊榮神社の境内昔の八幡山の連続地帯に紛れもない古窯址が現存して居るからだ。李朝陶器の研究家淺川伯教氏の時代鑑定によると徳川初期恐らく寛永を遡るまい、そして必ずしもそう新しいものではないそうである。吾等の見る處又然りである。焼方は著しく肥前窯に類似して居る。即ち李朝系陶器の一分脈にちがひないのだ。

宮野村松緑焼は萩焼の系統を踏み更にそれから卒頭一步を進めて新機軸を出したと自負するものである。開窯は明治二十五年、九世松緑本名大和作太郎氏の時のことである。今は十世松緑春信氏兄弟が父祖の業を継ぎ營々として倦まず益々技を練つた結果その勞漸く報ひられ聲名を遙かに佛國巴里の地にまで傳はらすに至つたのである。彼はその抱負を述べて曰く

本質評價の低落、特技の冒瀆を怖れ、製作材料、釉薬に至るまで自ら採掘調度し、「松緑焼」の

「ヒビ」「星」「火雲」等は腐心そのものなる多年の窯業常識的經驗と、一は化學的見地より、更に化學を超越せる「火焰と土」に對する微妙なる暗示的經驗により生れ出づる獨特のものにして、こは我近代美術工藝界に送り出されたる華々しき創造に外ならず。即ち古典其そのものを超越し、一は純真なる自然美を、更に幽遠なる原始美を、或時は繪畫のそれに、又或時は彫刻に比し、如何に立體化に富み、暗示色に濃厚なるか、其作品の底より表象せられる雅致は實に論理を超絶する美學なりと謳はれたるところにして、加ふるに用を重ぬるに従ひ、人工遠く及ばざる古色を粉し、其趣味愈々深き所以のものは、蓋し偶然の技にあらずと高言するところなり。

と。蓋し佳い哉やこの言である。但しあまりにも超現實を標望し淡々乎として茶室的作品に墮すると如何に松は緑であつても錢はくれないと云ふことになりはすまいか。一片の老婆心敢て名工松緑氏の啓蒙に資する所以である。尙萬代氏の經營して居た山口焼も亦萩系のものであつたが今はない。この窯からもなか／＼いゝものができて居た。同じく宮野村の禪寺瑞陽寺の法城が閑暇にまかせての土いぢり自ら「瑞陽寺焼」と稱する樂焼の泥塑も亦近代山口を飾る店頭床間美觀の一つである。但しこれも山口に於ける有閑階級の道樂としての存在價值しか今尙認められて居らないのは遺憾である。「ねえあなた土ひねりより土いぢり」川柳子ならねどかくは苦言奉ること如件。

泥塑に就いて想起するのは名工大庭可樂のことである。彼は明治十四年頃迄大殿大路に住んで九尺間口位の狭隘な店を構へ、その店頭に自作の泥塑像數個を陳列し毎日店番をしながら兀々として製作に餘念なかつたと云はれる。山口では彼の技倆を認め得る程の達識者殆んどなかつたと見えて何時行つてみても彼は寂然として居たそうである。併し彼の作品は上方地方で甚だ愛好された許りでなく、更に海外に迄その名を高めたと云はれて居る。彼は一種の奇人型の人であつたので遂に名を求めるとをしなかつたと傳へられる。今でも時々骨董屋の店頭に彼の作になる愛すべき黒色の小塑像を發見することが出来る。その作たるや顔貌は稍單一變化に乏しいが超俗的風韻自ら高きものがある。正に雅致掬すべき作品であると云へよう。

次で銀幕に躍り出したものは近頃めき／＼と賣出した新進スター、ミス大内人形である。この大内人形嬢は頗るモガである。格好は昔流行つた「ブチ獨樂」を宛も轉倒した如きであるがその満艦色振と何時もアインパールで睦まじい處を見せて居るのは近代山口風景の尖端に行くにはまさしくふさわしいものと云へよう。だが古風な山口の風景には彼女の衣装は少し華美すぎますね。山口銀座街のそゞろ歩きに新婚の夢尙まどかな若夫婦に買つて貰へるのがまあ關の山ですな。あの陰徳太平記と云ふ俗書をもぢつてあられもない因縁起源を偽造して大内人形と銘打つよりもせめて「ヤマガチビイナ」即

ち「山口雛」と素直に命名をして賣出すか、又はその服裝美に負けない様な近代振を發揮して「鴛鴦人形」とか「夫婦雛」と題し「夫婦和合」のお守り人形として大いに宣傳した方が得策ではあるまいか。敢て識者の反省示教を乞ふものである。

大内人形に續いて現れたのは大内人形とは兄弟姉妹の間柄である郷土藝術農民人形である。之は大内村の農民の手によつて製作される木彫彩色人形である。まだ發展生長の途上にあるものだから未來の完成こそ見物である。だが一寸お問ねしますが、あなたの郷土は信州ですか。道理で運賃がかゝつて高價ですな。

木彫人形と云へば吾々はそれこそ紛れもない大内人形の實物を知つて居る。筆者もその二三を所藏して居るし巷間にもちよいちよい影を見せることがあるが木彫着彩の小人形である。多くは佛像型であつて普通星の神様と信ぜられて居る。今八幡宮の修理の際天井裏から發見されたもので中には文龜頃の年號銘があるものもあつたと云はれて居る。参考の爲一言附加した次第である。

以上の他山口名産には竹細工主として團扇の骨、雨傘や農具の二三があるが、特に擧げて評判する程でもないから止めて置いて、いよいよ次に食道樂の世界に筆を進めてゆくことにする。

「名物にうまいものなし」とは古來の名言であるそうな。併し虚心坦懐にこれを吟味してみると論

理上の大なる誤謬がある様だ。第一「名物はうまいものである」と云ふ假定が嘘である。「うまいものが名物である」と云ふことが必ずしも成立しないと同様前者も亦真ではない筈だ。だからさ「名物にうまいものなし」は所謂獨斷だよ。山口名物たるもの大いに安堵して可なりである。と云つて筆者は「山口名物はうまからず」と評價するつもりではないのである。必ずしもうまくなくても山口名物であり得るし又うまければ勿論山口名物になり得ると云ふ論理を證明すれば評判記の役目はすむのである。

楮山口名物甘黨の筆頭は即ち「外郎」である。之を「グワイロウ」と讀んでは確かに愚弄である。「ウイロウ」と變挺古な發音しなければならぬ處がやはりこの名菓の味である。外郎は傳説によると歸化物即ち舶來品である。その名前も實はその故國支那の官名であるそうな。どうしてあんな形式のやかましい官吏崇拜の國で、官名が人の腹に飛込む菓子の名に墮落したのか考へて見ても合點がゆかぬ。智謀策略碁局の上にさへ天下を取る眞似をする老大國のこと故或ひは菓子になつて他人の腹の底迄さぐつて見る必要があつたのかも知れぬ。餘談はさて置いてこの外郎には昔は黑白の二種があつた。今でこそ驛通りには白外郎の立看板が並列するし一支隊は小郡驛頭に迄進出して居るが、實は御堀の福田屋がその本家である。だから外郎なら御堀の外郎に限る。そんぢよそこいらのへなへな外郎を食

べて「山口の外郎ちうものは味がなつちよらんのだ」と悪まれ口を敲たたいてはならぬ。見かけはどひようしもない醜いがその淡々たる舌觸りと風味は忘れ難いものがある。特に福田屋の店頭に腰を下して街道の松並木越しに姫山の緑の線を眺望しながら澁茶と共にこれを吞下す趣味は古典山口を訪れ味ひ而して愛するものゝ是非こゝろみるべきことであらう。

外郎が古典山口の象徴なら山陰堂の「舌鼓」は正に近代山口の味を代表する者であると云へよう。この二者に「萩の薫」と云ふ傳來品を加へると山口名物の三角塔が出来上るわけだ。舌鼓は外郎の枯淡な味に對して濃艶である。しかしその材料の精撰による感觸と佳味は唯に山口名物として止まらず噴々たる名聲はむしろ東京方面に多くの顧客を有して居ることも知られる。山口では外郎の方が喜ばれるが東京方面では舌鼓の方がむしろ賞美せられる。モダン山口の味と筆者が明言したのはこれが爲である。近頃二三追従者が表れたがとても匹嚙する處でなかつた。但し山陰堂は「舌鼓」を王者とし「桃山」「夜の梅」に精進すべきが正道であつて敢て福田屋外郎と伍せんとするの野望は捨て去られたがよからうと存するが奈如いかなものでござる。

山口名産夏橙菓子「萩の薫」何だか言葉だけ聞くと獅身人面のスインクスの感じですな。夏橙と萩その印象が強ければ強い丈よけいに山口名産の題筈が氣にかゝるのである。そう云へば他來者よそらしい

風格は味の上にもこもつて居る様だ。何か古風な山口にはふさわない妙にお上品に出来て居るお菓子だ。この處まさに舌鼓と好一對、そして山口ではあまり賞美せられないで専ら東京や京阪神方面に販路を求めて居るのもそれが爲である。地方色ローカルカラーの最もよく出たものとしてはやはり外郎に越したものはない。しかし後河原の柳櫻をこきませた葉ざくらの道をお副物に貰つた紙袋から萩の薫をつまみ出して口に入れながら歩むとその自ら溶けてゆくこのお菓子の風味はやつぱし長州らしいなと泌々思ひ出されて来る。と同時にこの菓子の製造元は、はてな何とか云つたなとちよいと考へてみる。アルファベットのABCから順次XYZまでを頭の中に閃かせてみながら。

お次は一味堂の梅羊羹や湯田の菊水饅頭である。梅羊羹は周防月ヶ瀬の名稱がある方便山の麓二ツ堂梅林の梅を材料にしたものであるがその好尚と風味の點よりする時は羊羹にするより寧ろ梅外郎にして百パーセントの郷土味を持たした方がいゝと思ふ。羊羹はあまりにも近代モダン的である。同じく一味堂の大内饅頭、大内菱の極印附だが味は中世の味でなくて當に近世否最近世の味である。新興山口市の理想を饅頭で象徴した形である。一味賞すべき山口名物の一つ。菊水饅頭は温泉名物である。正成の紋所と湯田温泉と如何なる相關々係があるかさすがの筆者も知ることが出来ないが或ひは南朝の興隆に誠心を盡した正成の功績と傳説に湯田温泉を發見したと云はれる大内義興が將軍家再興に貢献した

事蹟とを饅頭で結合させたのかもしれない。宛も餡と外皮の如き相關々係を見出すことに於て。とにかくこの饅頭は安價なことに於ては名物である。この世智辛い世の中に今も昔の値段一個金一錢也を固持しその實は正に二錢の蒸菓子と匹疇するのだから緊縮時代の手土産としては格好なものである。味は淡々として茶を飲むに適する。この他昭和ケーキ、長崎カステラの如き徒に至つては枚擧に遑がない程であるがこゝではそんな外來品めいたものは一切評判せぬことにする。仍で筆鋒を變へて今はないが昔はあつた、そして名物本來の面目を遺憾なく發揮して居たものに就いて述べる。

先づそれは名物つるし柿である。秋の山口を訪れて先づ眼を驚かす者は樹頭高く累々乎として赤く色づいた柿の壯觀である。左程柿は山口の名物である。名物つるし柿が久しく聲譽をほしいままにして遂に山陽外史をして看板に「つるし」と靈筆を揮はしめたと云はれるのも宜なる哉である。こうした有名な名物つるし柿は昔下堅小路で野村某と云ふ者が製造して居たもので毎年藩公に献上して居つたと云はれる。凡そ四百年以前の開業で時代の古い點では外郎と兄たり難し弟たり難しと云ふ處である。こゝのつるし柿は古いもの程風味があるので店頭でひさいで居つたものは凡て三年を経過したものであつた。その代り値段もなかなかよくて一個數十錢もした。山口のつるし柿と云へばつるし柿そのものも勿論有名だつたがそれよりも更にその看板の方が一層著名であつた。

山陽の筆と信じられて居た位の名筆で後世一時山口に寓居した長三州は常にこの書を愛惜して居つたと傳へられる。おぼろ饅頭、池の月等も昔は山口の名物であつたが今は何れも「池の面にかげおとしたるおぼろ月いまは山端に消へ入りにけり」で昔の面影を見るすべもないのである。

辛黨では山口名物小蓼がある。常隣寺の四季蓼穂と云へば「毛吹草」と云ふ古書に出て居る程著名であつた。瓜、蕪、二月筍等島のもの揃ひでこれだけ見ると山口も一躍して田園都市と誤られそうであるが實は瓜は山口郊外矢原と戀路の名産、二月筍は温泉湯田の産で之は山口七不思議の一つ。蕪は「諸願小路の島に産す」と記録にはあるが今はどうしてこの附近は島どころか山口の柳暗花明の巷であつて絃歌絶へない歡樂境、嘗ての肥料の臭氣は今は脂粉の香に完全に城明け渡しをして居るのである。方言「なば」即ち松茸は秋の山口が食通を喜ばす一品料理であり、錦川・榎野川の「ごり」も亦山口名物の一つである。調味料「味の精」は近來めきめきと賣出した山口名物である。世界的名聲を博した「味の素」の缺點を補つてゐる點が自慢である。この他味噌、酒、酢、醤油の類も亦山口名産の一つとして山口工業界の一役を買つて出て居るが「人間至處在青山」青山あつて日本人の住む處味噌、酒、酢、醤油の製造は行はれて居るので特に山口名物の特稱を冠する所以でもあるまいと思つてこゝでは省略をすることにしたのである。

最後にも一つ二つ忘れてはならぬ山口名物がある。「ねえた、のんた、ちうにごつぼう、どひようしもない」山口訛がそれである。或ひは又「山口で謡をうたふな、小郡で喧嘩をするな、防府で淨瑠璃をうなるな」と云はれて居る喜多流謡曲と鶯流狂言も亦山口名物の特筆すべきものかも知れぬ、其他年中行事の祇園會とそれに附帶した鶯舞及び山鉾や七夕祭の提灯等も亦逸してならぬ山口名物である。そこで先づ「山口訛」から始めて順次それらを俎上に置くことにする。

昔山口訛の唄と云ふものが流行した。それはこうである。

山口訛はあのそにこのそ、おぬしやどうかちうか、うらいぬるちうにごつぼうさばけん、にいま、
ねえまにごうま、せんぎんごんど、おたいがたい、おつばいしやんすな、いけんちや、いんだら
おかゝにいうちやげる、ほゝとくくないによゝさけない、やみくもほろけた國訛、長州防州ねえ
た

これは一貫した意味を持つたものではないが、こゝろみに迷譯をお目にかけると次の通りだ。

山口訛はあれやこれやあるが「お前さんどうしたの」「俺は歸るよ、もうとてもやり切れねえ、
兄貴にも姉丈にもお嬢さんにも一切合切相濟まねんだ」「戯談お云ひでないよ、いやな方ね、
歸つたら阿母さんに云ひつけてあげるよ」「えゝ汚らわしい、うるさいな」と加速度的に落ちに

なつて行つた國訛の長州言葉防州言葉は依如件。

この他に山口訛には古風なものが残存して居る。南瓜のことを「ぼーぼら」と云ふのはぼるちゆがる語の「あぼーぶら」から出て居るのは有名な話、「唐もろこし」が「なんばんきび」これも南蠻伴天連の遺物、更に「蝮」を「はみ」と云ひ「尿する」を「しいをばる」と云ふのは南島琉球地方に今も残る古代日本の遺影であるそうなる。「春菊」を「ろうま」と云ふのはこれが歐羅巴からの傳來品であることを語るものらしい。「おーちんでござんすか」とか「おいろしなされませ」と山口の人達が店頭で方言を使つて居るのを聞くと旅客は恐らく大内時代の山口に思を歸してゆくことができるであらう。

喜多流謡曲は昔藩公の御用謡であつた關係上盛んに流行したものである。今は毛利家では觀世流が採用されて居るが山口地方では相變らず喜多が傳統を重んずる人々の間にうなられて「高砂や、この浦船に」と高砂屋修業の聲は至る處で生活倦怠の響を聞かせてくれるのである。尤も五月の野田能舞臺に於ける恒例能狂言は氷上二月會の能興行を引繼いだ山口としては忘れ難い年中行事であるが時勢に災せられて逐次衰退の足どりとつて居るのは頗る遺憾なこと、云はねばならぬ。衰退と云へば昔はこの野田能狂言の呼物であつた驚流狂言は今全くその能舞臺から姿を没してしまつた程衰へて來た。喜多流謡曲なら珍らしくもないが驚流狂言だけは日本名物と云つても過言ではないものである。

昔は大藏、和泉流と並んで狂言の三大潮流と云はれたものであるが今はこの驚の一系統のみは廢絶してしまつて僅かに西陲の古都にその殘花一輪の面影を止めて居るのである。驚流狂言の定本さえ珍重されて居るのだからたとへ少々型は崩れて居らうとも春日と云ふ名狂言師直傳の驚流狂言は何等かの方法を講じて古典山口の天下に誇る一名物として保存して置きたいものである。「これは此の邊の者でござる、召使ふ者呼び出して申附くることがござる、太郎冠者居るかやい」「はあ」「あるか」「お前に」「汝を呼び出したは別のことでもない。この程は驚流狂言格別に衰へてある程に、腹立たしうてならぬ。」「なか／＼、みども、左様に存じまする」「さては汝も左様存するか、はてさてよき工夫もあるまいか考へて參れ」「畏つてござる」「やい／＼太郎冠者よい思案ついたか」「なか／＼」「早く申してみい」「喃お主殿こう云ふ古歌がムる、トーカーやラデオで逃る驚二つどつこい捕へて原ぞ立てまい」「いかなものでムる」「なんでもないことあちらへ失せう」「はあ」「まだそれに居るか」「はあ」太郎冠者の云つた近代文明に追立てられて飛立たうとした驚二つのうち残り一つは名物祇園會に出る神事舞の驚のことを云つたものである。これも亦日本名代の一つで古式を保存して居る點では恐らく日本一の驚舞と云つていゝだらう。津和野祇園の驚舞の方が早く東都に進出して郷土舞踊として天下に紹介せられたが彼は山口の驚舞の末流にすぎないのである。換言すれば吉見氏が山口の驚舞を津

和野に移植をし龜井氏が更に夫を再興したものである。山口祇園の鶯舞は祇園會と共に大内氏が京都から遷した古い因縁つきのものであるが、その本家である京の祇園鶯舞は古い記録にその有様を傳へて居るのみで今は全くその遺風さへも残つて居らぬのである。これが益々山口の鶯舞を學問的に價値づける所以である。仍でその名物鶯舞の内容を一寸紹介することにする。

山口祇園祭實の名は京都風の祇園會は昔は六月七日から十三日迄行はれた大祭で、俚謡にも「關の先帝に山口の祇園雨が降らんや風が吹く」と迄喧傳されたものであるが、その祭の第一日目と最終日の御神幸に先立つてこの鶯舞は行はれる。鶯は雌雄二羽居つて扮装は白帷子長着、白襦袢、白帶、白跨で白脛巾を當て鶯の頭を被り、鶯の翼を左右につける。この二羽の鶯が御神前社檀の扇の芝で粗朴な踊をする。その時鶯追役の「赤シヤグマ」が赤毛頭を被り、濃淺黃麻地に鶯定紋入白貫染長着、堅縞袴、白帶、淺黃白段染の袴をかけ鉤太刀を佩き鐵砲に擬した筒をとつて舞ふ。又「かんこ」と稱する二人の兒童が濃淺黃色鶯定紋入白貫染長着、薄紅色袴、紅白段染袴に白黒段附烏帽子をつけ鼓を前に吊し之を打ちながな跳ねる眞似をするのである。そしてそれに笛太鼓の囀が入る。津和野の鶯舞には唄手が居て「橋の上におりゐる鳥はなんどり、かはさゝぎの、かはさゝぎイの、ヤアかはさゝぎの、さぎが橋をわたした、しぐれの雨にぬれ通り、とをり、とをり」と云ふ古調を唱和するそうであるが山

口の鶯舞にはこの唄はないのである。或ひは恐らく早く失はれたのかも知れぬ。尙鶯舞に就いては山口の老人達はいろんなことを云ひ傳へて居る。鶯が出ぬと御神幸が出されぬのでその使者が鶯の當町である堂の前へ七度も立つ、そしてやつと六度半目即ち七度目の使者と途中で會ふ頃鶯の連中は神社へやつて來るのである。だから山口では人がなかなか來ないで幾度も使をやらねばならぬのを「鶯の使ぢやないがどひようしてまどるのんた」と云つて居るのである。

山口祇園のも一つの名物はその飾山鉾山である。飾山には藩の公費で作られた御上山と町々が費用を負擔して作つた飾山との二種があり、鉾山も同くこの町費による山でこれは道場門前、米屋町、中市、大市の四町内から各々一臺宛を出す。京の祇園鉾山に當るものでその名もそれを踏襲して菊水鉾、もゝの鉾、三日月鉾、舟鉾と云つて居る。飾山のうち御上山は福祿壽に唐子乃至鶴鹿に櫻を配したものであるが、他の飾山は毎年藝題を變へる武者人形山である。或ひは「宇治川合戦」と云ひ或ひは「大關記」「楠公記」の類稀には「七福人」等も作られるのである。これでは上金古會町のものが毎年傑作であつた。この他相物小路、北野小路等の小町内からは「惠比須」「大黒」「猩々」等の人形山が出るのを例として居る。これ等の二十餘の飾山が昔は町々を車の軌の音も壯重にヨイシヨ、ヨイシヨの掛聲と共に綱をつけて神幸道を引き廻されたものである。まことに田舎では珍らしい壯觀であつた。一時

電線障害の爲中止されて居たが又近年その中の二三のもの丈作られて引かれることになった。しかしもう今は山も低く數も少くなつて昔の壯觀さは想像することさへ困難になつてしまつた。「古きもの皆亡ぶ」古都山口の失ふべからざるものさへかくて日々吾々の眼前から喪失し、やがては人々の記憶にさへもその影を微塵も止めなくなつてゆくにちがひないと思ふと、われらのふるさと山口の爲に惜しきものを惜むこゝろ切なるものがある。これは土地に愛着を持つ者のみの味ふ氣持で新來の山口人所謂山口人ならぬ山口人或ひはモダンぶるえせ新人達にはいさゝかも感じ得られないことであると極言し得るものである。山口を極端に近代化せんとする者は正しく山口を永久に害する者に他ならないのである。一言以て「とゞめ」を刺しこの山口名物評判記の稿を終ることとする。

山ア焼くのはだゝれ

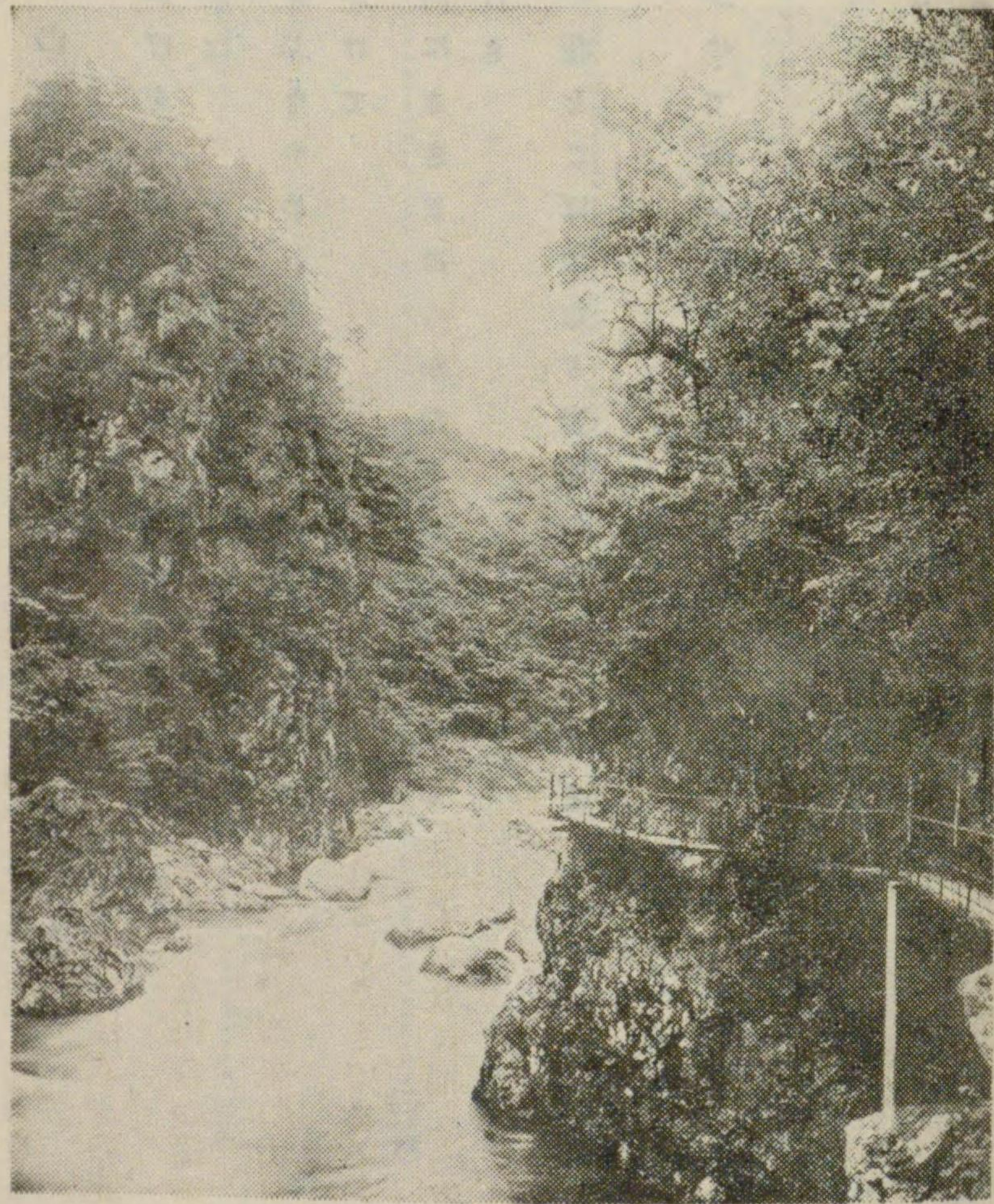
大市の長さちやう

出て見りやほやけ

(山口古民謡)

島海青と洞芳秋・峽門長・萩

著 郎 五 川 小



長門 峽……………三九

水郷 萩……………三三

秋芳洞と秋吉臺……………三六

青海島と須佐灣……………三八

長門峽の春

小川五郎

ふかぶちにかげをうつして咲きゐるはらすいろ
 ばなの山櫻かな
 いつせいに芽ぶきそめたる溪の樹々ひかりてた
 てりいく山かけて
 合歡のはな梢にさきてほのかなりゆふべの溪を
 ゆきてさみしき
 風ふけば梢の花をこぼすなり青淵のうへの山ざ
 くらばな
 花びらをうかせて湛ふ深淵にたつなみこまし溪
 のそよかせ
 ひとゝころにふきよせられて青淵に散りうくは
 なのゆるゝさみしさ

歴史と傳説に富む山都山口を一覽した人はその夜は湯田温泉に一浴して緩ゆづくり旅の疲勞を癒した上、更に翌日から各々の計畫プランの下に或ひは維新の策源地萩の史蹟を巡禮し、或ひは耶馬溪以上の稱ある長門峽、松島の勝景を凌ぐ須佐灣頭の大觀、又は海上アルプスと命名せられた青海島一帯の海上風景を探勝し或ひは又秋芳洞に天下の奇觀を見、八代の仙郷に鶴の飛來を訪ね、足を延ばして周防岩國錦帯橋の奇構に驚の眼を見張るもよからう。春ならば徳佐八幡宮の巨木枝垂櫻、岩國吉香公園の櫻、長府功山寺の櫻さては萩城址志都岐神社境内の櫻が爛漫として咲き誇るであらうし、夏ならば羽雁濱、美能濱、富海濱、虹濱、室積灣頭の海光が自ら涼風を孕んで迫り來るのだ。秋は長門峽を第一とすれど更に二州の山河至る處秋色美を増すが故に詩情豊かに漫步すべく特に佐波川の上流長者原の臺地、秋吉臺山一帯の高原地帯は秋興頓に深きものを持つて居る特殊風景である。天高うして山登りするも佳く、山には寂地山を始め神籠石遺跡のある石城山や方便山、華山、鬼城山等々何れも左程高くもなく嶮にもあらずと云ふ丁度アマチュアの登山には格好のものである。冬の時節シーズンは雪見とスキー、前者には長門峽の雪、常榮寺庭園の雪景等至る處味ふべき風景多く、後者には日本最西端のスキー場として著名な徳佐ヶ峯、伏馬山、嘉年臺山等があつて人氣を呼んで居る。温泉湯治は湯田を始めとして深川湯本、俵山、川棚の四温泉があつて効驗に設備に夫々特色を持つて居る。かくて縣下至る處景勝の

地遊覽の地を見出し各々の趣味に適合した遊歴をこゝろすることができるのである。以下天下の奇觀長門の三大絶勝と推稱されて居る長門峽、秋芳洞、青海島を中心として爾餘の上掲名勝遊覽地の簡単な説明をして置こうと思ふ。詳細は各勝地別の案内書があるからそれに就いて研究せられんことを希望する。

長門峽の秋

小川五郎

深淵のたゞえしづけきみづのいろひとつうきた
る黄いろもみぢば(龍宮淵)

高秋の空にそろひてふたつ立つみねのもみぢば

陽に光るなり(枳崎口大觀)

峽空はくるゝにはやし夕燒のいまだきえぬにゆ

ふづきひかり

長門峽

山口から長門峽へ行くには山口線に投じて宮野、仁保、篠目の三驛を経て長門峽驛に下車するのが最も便利である。長門峽驛を下ればそこが即ち峽の入口で大人の握飯から出来たと傳説して居る飯の山が小松を生やして探勝者を送迎して居る。

長門峽と云ふのは阿武川の上流地域、長門峽驛のある篠生村御堂原から川上村高瀬に至る約四里の峽谷の汎稱である。峽内には更に支流生雲川に生雲溪、金郷川に金郷溪、佐々並川に漣溪等の奇勝があつて本溪の絶景と相埃つて延々七里に汎る天下の奇觀である。尙ちやうもんけつ「長門峽」の名稱は最近高島北海畫伯等の興へた處で古くは「龍宮溪」又は「長門耶馬溪」等の名を以て呼ばれて居たのである。

楮先づ最初が「丁字川」である。阿武川本流と支流篠目川こゝに會して地質學上興味ある丁字川を形成して居るのである。こゝを過ぎて山漸く迫り來り約十町を入ると「千瀑洞口」の奇峰清溪が眼前に展開するのである。峽中第一勝と稱すべきである。

山蘭の香走る岩間風噴いて

古屋醉紅

かくてこれ以後奇巖奇峰斷崖峭壁奔流碧潭は相繼いで展開し來つて宛も机上に山陽の耶馬溪圖卷を

緋くの感あらしむのである。就中榎ヶ淵舟入の寂然として湛えたる碧潭廣滑附近の闊然として開けたる風景美、斷魚溪の奔流紅葉橋上の眺望、龍宮淵の閑寂は特筆してよからう。紅葉橋を渡つて生雲溪に入れば暗り淵の佳景があり、雪舟橋の懸れる野戸呂川を溯れば雪舟閑居の趾と傳へられる處もある。

木埃寄する淵にして巨岩滴れる(舟入)

久我士亥

涼しさ憩ふ晝も鰻の子のぼれる(斷魚溪)

宇佐川水裏

鬱氣青き瀬落ち溜りの鮎飛び(同上)

水裏

水の音涼しう山樹明りかな(同上)

古屋 醉紅

涼しさに在れば河鹿の音まるばす(紅葉橋)

醉紅

躑躅遅るゝ淵暗がりや苔の花(暗がり淵)

醉紅

三光鳥鳴き交す深山茂かな(雪舟橋附近)

醉紅

龍宮淵を過ぎて山路十七町を行くと湯瀬温泉がある。萬碧樓、澄心閣等佳名を以て呼ばるゝ旅館があつて探勝者を迎へる萬般の設備が整つて居る。こゝに一憩して清溪の香魚を味ひ或ひは河鹿を聴くのもよからう、そして更に峽中最絶勝とも稱すべき柗崎口や切籠切窓の大觀及び金郷溪を探ることにしよう。

山の温泉に静まりて聴く河鹿かな

醉紅

湯の瀬を出て約五町川に沿ふて山徑を傳へば柗崎口に達することができる。阿武川はこの地點で緩やかに迂廻して清冽の水白砂の州を洗つて流れてゆくのである。大天狗小天狗の奇峰烏帽子岩の奇岩等碧空に聳立し緑樹、紅葉季節に従つて山を彩修し山影靜かに水上に投影するの景は峽中稀に見る寛闊なものである。こゝにある長門峽燒に旅の一句を書きつけて探勝の記念とするのも面白い遊びである。

鮎掛の居て秋の川明りかな(柗崎尻)

水裏

紅葉晴るゝ器のどれこれを見て返す

醉紅

紅葉素通りし窯元の小春かな

水裏

柗崎口から約十町を下ると金郷出合である。この附近こそ長門峽中の最大壯觀である。切籠切窓の巨岩の豪放雄大さは筆舌の盡す處でない。秋から春にかけてはこの附近に山猿の影を稀に見ることがある。點景としてはまことに格好なものである。絶勝佳景に富む金郷溪はこゝから藏目喜川即ち金郷川に沿ふて遡るのである。金松岩、猿溪の瀑等峽中の傑作は多くこの溪中に集中せられて居ると云へる。

岩立の樹まだ染まらず鮎掛けて(切籠)

水裏

渡り猿の居て見する顔紅葉踏む

水裏

仰ぎ見る 秋天の小鳥光りけり(同上)

醉 紅

磐石のさび踏む紅葉明りかな(猿溪)

醉 紅

金郷溪を見終れば大體に於て長門峽探勝はすむことになる。従つて再び往道を湯瀬經由引還すもよからうが若しも時間と費用が許せば川沿ひに約一里半川上村高瀬へ出て川舟を傭うて沿岸の風光を賞でつゝ萩へ下るのが理想的である。長門峽驛を早旦に發すればこの行程約一日で行くことが可能である。薄暮水郷萩に到着して日本海の鮮魚に舌鼓打つのも一興であらう。尙更に峽中湯瀬乃至高瀬に泊することのできる人は高瀬の對岸清宗部落の佐々連洞と稱する石灰洞を訪ひ又高瀬の下流藤藏から佐々並川を遡つて所謂漣溪の勝を探るといふ。尙長門峽と季節を云へば春は樹の芽ふく頃から躑躅、藤、山吹の花が咲く若葉の時節がよい。河鹿と時鳥と藪鶯と峽は詩情豊かである。夏は稍平凡なれど香魚は名物である。秋は萬山紅葉して壯觀類なく、冬の雪景又非凡であり加ふるに鴛鴦來り遊ぶは雅致この上ない風景である。其他霧によく雨によく月によく更に朝且昏暮何れにもよいのである。特に月明黄昏の如く明暗劃然たる時は峽は一層の森嚴味を加へるのである。

山水に漉ぐや秋樹明るうて(白糸瀧)

古 屋 醉 紅

春蘭など摘み遊ぶ子居り春の山

醉 紅

水 郷 萩

水郷萩は同時に城下町萩であり明治維新の策源地としての萩である。年々萩を訪れる客數十萬と稱せられてゐるがその大部分は史蹟の町萩を縫ふて松下村塾や萩城や伊藤山縣等明治元勳の遺跡を訪問する人達である。従つて萩町當事者もこれ等の人達の便宜をはかり町役場内に特に史蹟案内係を常置して藤本瀧江氏等専らその衝に當つて居る。だから萩を觀よう知くくらうとする諸士は豫め町役場内史蹟係に交渉して東導方を依頼して置かれると甚だ都合がいゝわけである。

楮山口方面から萩へ行くには各種各様の經路交通機關がある。即ち凡そ次の通りである。

長門峽經由(汽車) 山口線長門峽驛下車、長門峽を探勝して高瀬へ出で高瀬から川船に乗つて萩へ至る。

行程一日。

八丁越經由(自動車) 山口萩間の定期乗合自動車に乗つて俚稱八丁越の險を越え、佐々並、明木を経て萩に至る。行程約三時間。八丁越は新線の頃には満山是綠、白路延々は一條と云つた處で雄大壯快な景色である。

大田經由(自動車) これも小郡萩間の定期乗合自動車便によるものである。山口小郡間は汽車又は乗合自動車便がある。山口、小郡、大田、萩間行程約三時間位である。秋芳洞は途中大田に下車すれば歩行約一里で行ける、従つてこの途をとる人は併せて秋芳洞を見物するがいゝ。

仙崎經由（汽車） 先づ山口から小郡へ出て山陽線下關行に乘車し厚狹驛から更に美禰線に乗換へて正明市に至り再び山陰線に乗換へて萩に至る。行程約五時間。尙この線を執る人は美禰線吉則驛に下車して自動車便をかりて秋芳洞を探り、正明市から自動車で五分仙崎に出で定期島廻船によつて海上アルプス青海島を一周してその夜深川湯本に一浴するか更に長驅して萩に至ることができる。尤も後の行程はかなり無理をしてうまく時と交通機關を利用しないと不可能に終る恐れがある。

又仙崎萩間は汽船でも行ける。春夏の季節なら日本海も波が穏だから海路萩へゆくのも亦興味深いものである。

こうして萩へ到着したらなるたけ水郷の氣分が味へる河畔の宿に泊まられるがいゝ。橋本橋畔の富田屋などはその意味に於て適當な宿である。尤も町へ便利と云ふ點だと巴ホテル、大阪屋等がいゝかも知れぬ。萩には驛が三つあるから初旅の人は注意しないとゝんだ目に逢ふよ。町の中心地には東萩驛下車が好都合だし、富田屋等のある橋本河附近へは萩驛下車が便利である。史蹟係との打合せは宿へ着くと匆々に完了して置くがいゝ、宿の者に相談せられたら適當に取謀つてくれるだらう。

萩町史蹟名勝の鮮細は案内記若しは案内者の説明に譲るとして、凡そどんな處を見るべきかを列舉して見よう。先づ橋本橋畔を出發點として考へて山縣、桂二公の誕生地、大照院、龍藏寺、南園館等は興味あれば見るがよく單に一瞥的巡遊者は是等は除去して一路明倫館に至り當時の記念物を見て車上高

杉東行、木戸孝允舊宅址を望見して萩城址を訪ふがいゝ。かくて天主閣址に登つて往時を回想し菊ヶ濱を漫步して六島を遠望し更に車を走らせて松陰投獄の遺址たる野山獄址を見て濱崎に出で般廠址、千石倉等の遺構を探究するもよからう。そして松下村塾に至り松陰神社に賽し幽囚の家を見るが順序である。志ある者は伊藤博文、玉木文之進等の舊宅を見て松陰誕生地に登るもいゝ。松陰神社から海岸傳ひに探勝道路は越ヶ濱に延びて居る。途中小畑に史蹟反射爐があるが是は車上望見でよからう。越濱には明神池がある。大魚小魚の潑瀾として水上に跳り出づるを見ることが出来る。明神池より山道を登攀すればまもなく笠山の頂に達するのである。笠山は模範的な小火山で頂には今も尙噴火口壁が残つて居る。而して笠山頂上の大觀は又逸すべからざるもので菊濱の長汀、鶴江臺の段丘眼下にあり又六島は碁布し雲烟遙かに「萩と見島は眼で見りや近い舟で通へば十八里」と唄はれるその孤島見島を望見することが出来るのである。來つて登るべし、登つて見るべき佳景絶勝である。かくて山を下つて萩一覽の豫定を恙なく終らば越濱大谷水族館に入つて酒肴を命じ海上の水光に相對して一盞を汲むべしである。

古城の天主の跡のいしずゑに腰かけてきくうぐ
ひすの聲(指月萩城址二首)
城あとの吉野ざくらの花ちりてゆく春かなしわ
れは惜まむ

東光寺大江朝臣が墓どころ桐の若葉さやに匂へ
り(東光寺)

青波の高春ましるゝ光りつゝまつすぐにすゝむ
このありそべに(菊ヶ濱三首)

鶴江臺の高ききりぎしめがけつゝ青波のうねり
ひたよせにけり

まつしろくざんぶと散れる高なみのはるかに見
ゆる鶴江の岬はなに

矩方がみたま祀りしみやしろのひともとかへで
は芽をふきてをり(松陰神社)

矩方がわかれ惜しみし涙松あとかたもなくて石
ひとつあり(涙松遺址)

秋芳洞と秋吉臺

秋芳洞は秋吉臺の東北に在る一大石灰洞穴で洞口は秋吉村廣谷の部落に屬して居る。昔は之を瀧穴と稱して居たが大正十五年以後今の名秋芳洞に改められたのである。

今洞内を簡単に説明するに普通觀覽區域は洞口から千九百米乃至九百六十米位の奥であつてその間に自然力の妙、天然の奇構が存在して居るのである。即ち青天井、宵の明星、六地藏を経て長淵を渡ると千枚皿と稱する奇勝がある。南瓜岩、苞柿、天蓋岩を見て千町田を過ぎると傘ヅクシ、鐘乳石群の奇觀があり岩屋觀音蘇鐵岩ありて更に黄金柱の壯觀に至ることができる。昔は松火を點じて窟内を見物したもので甚だ神祕的な氣分のしたものであつたが、今はスイッチ一つで電燈が煌々として照明するので雄大壯嚴さは著しく減殺された。併し便利と云ふ點ではやはり文明なる哉と云ふ感を抱く。因に秋芳洞案内は洞口にその事務所があるのでそれについて詳細聞かれるがよろしい。山口からの交通機關は借切自動車で往復するもよいし(所要時間往復五時間)小郡驛頭から秋吉方面行乃至萩行(但しこれに乗つた人は大田で降車し更に秋吉迄約一里の行程を都合してをく必要がある)に乗つてゆくがよい。汽車ならば美彌線吉則驛に下車し乗合自動車で伊佐を経て秋吉へ行くのである。

尙秋芳洞附近にはこの他著名な石灰洞穴が數多ある。時間と旅費を都合し得る人達は夫等も併せ觀てをかなれるとよからう。尤も交通はかなり不便だから借切自動車代位は豫定費用の中に加算して置かなねばならぬ。行程は自動車なら一日で充分である。今その中で有名な洞穴名を擧げると中尾洞、大正洞、景清洞等であらう。

次に秋吉臺、俚稱臺山も亦見てをくべき天下の奇勝である。秋吉臺は大田、秋吉以下二町九村に跨る大高原地帯の汎稱で東西を分つて更に秋吉臺、江原台とも云つて居る。面積約二十平方里、臺地は地質學上の所謂「カルスト」臺地で「ドリネ」耕作の珍風景を形成して居る。大阪毎日の日本新百景に加へられたのはこの臺地の高原美である。實に秋吉臺上の秋は清爽である。放れ駒高く嘶く高原の秋、旅愁深く往路の人のこゝろを痛めるであらう。但し臺上は危険であるから通達した案内人なくしては登らぬがよし。

小川 五郎

蠟燭をともしてすゝむ洞穴のしどまにひゞく砂利をふむ音（景清洞）
灯して暗き洞穴の木の梯すべりあやぶみ耐へつゝゆくも（中尾洞二首）
垂れ下る石の柱に蠟燭の灯かげあかるくゆらぎけるかも
垂れし尾を高原わたる秋風になびかせて馬は裾原をゆく（秋吉臺）

青海島と須佐灣

海上アルプスの稱ある青海島と陸前松島に卓絶する須佐灣頭の青螺一碧とは北長州の東西に君臨する二大海岸美として風景日本の西部線上に確固たる地位を占めて居るのである。實に澎湃として打寄せる日本海の激浪と自然の爐火白山火山脈の檀なる造山作用との自らなる一大階調によつて造成せられたるこれ等の比類なき自然美は熱血兒吉田松陰を生んだ土地として格好なるものであるとの感が深いのである。ともあれ以下簡略に夫等の二絶勝を記述紹介することにする。

先づ青海島である。青海島は山陰線正明市驛の北方仙崎町と對峙する周回約七里の一島の總稱である。（管轄的には島の西部は仙崎町區内に編入せられて居る）所謂青海島の絶勝は主としてこの島の西海岸を發端として北海岸一帯の地域に展開するのである。即ち舟を浮べて行くと先づ老松亭々たる間に白金の青海湖を望見する波の橋立の勝がある。青海島風景としては豫想外な女性的構成美である。かくていよいよ西海岸に出ると鼻剝岩の洞門があり笏岬の奇勝がある。更に進めば夫婦洞、平家巖、白旗等の奇岩峭壁相連り相切つて出現する。かくて觀音洞の絶景に至る。更に蛇岩、石門等の勝を船上に右顧左眄しつゝゆけば間もなく大門小門の奇勝眼前に展開する。大門小門は青海島勝景中冠絶す

るもので規模の壮大と變化の妙是に超絶するものがないのである。かくて勝景應接に暇なく出沒自在であつて長濱、壁巖の勝を過ぐれば海金剛にも比すべき十六羅漢の怪岩奇石が狂瀾怒濤の中に屹然群立し白鷗悠々として飛翔するのを見ることができるのである。この他船行いて眼を轉ずればそれに呼應して各種各様の奇勝絶景が隠見出現して來るのであつて實に爽快な海上遊行である。かくて北岸東部及び東岸の勝を觀更に暇あれば大島笹島の附近を逍遙して後島を廻れば即ち船は波靜穩なる青海灣内に入るのである。灣に面して古刹西圓寺がありその書庫には万卷の書を藏して好學の士には公開を許して居る。西圓寺の末寺に尼僧の專修道場法船庵があるが男子禁制は勿論のこと嚴重なる戒律によつて一般俗世間との交渉を全く絶つて居る。もの好きによく是等の尼僧を見にゆく人があるがせつかく行かれてもその目的を達することは殆んど不可能であるからそんな無駄足は踏まれぬがよからう。だが大日比のこの尼さんは何と云つても青海島の人気集點である。青海島見物を女性的風景美の波の橋立青海湖の砂嘴から振出して上りが大日比法船庵と云ふ尼寺であることも或ひは何かの因縁かも知れぬ。隨緣これによつて具象したと考へれば尼さん達の精神生活と一脈の連絡は生ずるわけである。法縁無邊、絶勝無比、青海島は北海の聖地と云ふべきである。海上アルプスの名蓋し佳い哉やである。

山口から青海島に行くには山陽線厚狹驛で美禰線に乗換へ、正明市驛に下車して乗合自動車で約五分仙崎町に至りこゝで定期島廻り船に投じて探勝をするのである。季節は四五月頃から九月頃迄で海上安穩の時を佳しとする。所要時間は發動船で三四時間乃至五時間位と見てをいてよい。海上に閑をやるには和船を借りるがいゝ。萩經由の探勝者は萩から汽船で仙崎へ行くか、山陰線に投じて正明市驛へ行き以後は前述の行程をとればよい。尙青海島探勝に陸路探勝の方法もあるが是は充分なものとは云へない。

須佐灣頭の海岸美も亦殆んど青海島と同構異曲のものである。唯前者は周回七里の島を繞つて散在碁布する岩石美海洋美を主體とするが、後者は須佐灣なる一大灣入を中心としてその内外に散落する島嶼美と灣夫自體の背景を爲す本土の翠巒即ち高山を主峯とする連山群峯の山岳美を兼攝するのである。かくて自然の階調にも自らハ調ト調の變化を生じ一長一短弟たり難く兄たり難き所以を致すのである。併し何はともあれ天下の絶勝であることに異論を唱へる者は無い筈である。當に往いて見るべし、觀て嘆すべき海洋風景である。松島を以て日本三景の一と誇稱した時代は既に過去文明に屬する。隠れたる海岸美の王者須佐灣は新日本風景繪卷の中の壓卷と云ふことができるのである。須佐灣風景美の點描は便宜上碩學龜井南冥の須佐十二景詩の中の數篇によつて代辯させることにする。

誰知十洲外。長門有鶴洲。翠嵐晴可畫。清唳落中流。(鶴崎晴嵐)
點々蒲帆影。釣鱸何處歸。可憐鳥々背。與帶夕陽飛。(蛭地歸帆)

落帆何處船。九國定三越。不識瑞林寺。疎鐘夜半月。(中島泊舟)
 帝擘崑崙璞。投之東海裔。波間匿露頂。夕日爛相媚。(玉島夕照)
 煙浦千秋月。千秋月下人。不看秋月好。采煙給丁婚。(煙渚秋月)
 雌禽從厥雄。兩々皆相呼。驚起看雄鳴。有求雌鳥無。(雄鳥千鳥)
 登樓看大越。簾幕敞清秋。潮聲歸極浦。雁陣下中洲。(大越落雁)
 何年東奧勝。飛落穴門前。白波箭危岸。青松媚遠天。(松嶋白浪)
 秋雨瀟湘雨。遷人奈恨何。唐崎與平島。夜雨不堪多。(平嶋夜雨)

山口から須佐へ行くには二經路がある。即ち一は山口線益田驛で須佐線に乗換へて須佐へ到着するか、他の一經路は山口から先づ萩へ出て萩から乗合自動車の便を借りて須佐へ行くのである。(須佐行自動車は奈古驛からも出る、従つて奈古驛迄汽車を利用することもできる) 所要時間は山口須佐間汽車で約三時間

長門峽

宇佐川水裏

三光鳥鳴いて居る甘茶の花の晝

山蟬に花葛垂るゝ雷氣かな

石叩岩さびあさる葎枯れて

史蹟 各交
 名 各種
 勝覽 機關

索引

及

日 賃
 程 金
 表 表

引

東鳳嗣山讚仰

小川五郎

弓空に立ちてすがしき大峯の草のみどりに
秋立てり見ゆ

ひむがしの高峯は空にかたむきてすぐり立
つ見ゆ秋はちかゝらむ

雲をれど東の秀つ峰高空にやゝかたぶきて
今日し立てるも

低山の上にひとときはすぐり立つ方便の山を
見ればうれしも

山口史蹟名勝巡覽日程表及び交通機關各種賃金表

この日程は湯田温泉を基點として立案したものであるから若し山口驛より巡覽のスタートを切られたる方は山口驛の條項から適宜東行乃至西行の途を取られるがよい。乗物はタクシーを備はれるが便利であるが第二案の場合はタクシーのみではかへつて不便多き故寧ろ市内乗合自動車、三田尻山口間省營バス及適宜にタクシーを利用せられたがよかるふ。尙又道々の名勝舊蹟は自動車運轉手其他適當な案内者から聞きとられる様に豫め打合せしてをかれると便利である。而して本書の索引は更にその上の充分なる解説に役立つものである。

湯田温泉株式會社

山口高等學校

姫山

西方便山

双子山

朧の清水

鴻峯城址

山口電氣局

山口縣師範學校

長山城濠遺構

龜山公園表口

こゝにて下車、徒歩にて登山。自動車は圖書館前へ廻して置くことを命ずる。但し之も簡を尊ぶ人はそうせずそのまま自動車で龜山を仰ぎ見て更に縣立女學校前を通り先賢堂を望見し圖書館博物館も車中から眺めるがよい。併し博物館を逸せらるゝは山口に來て山口を見ざるに等しいと云ふべきである。

龜山公園

日露戰役記念砲臺

第一案

第一案は普通の山口見物者を目標に置いて立案したものである

湯田温泉を出發して大正道路を進む沿線の名勝舊蹟は

記念碑二基
舊藩主銅像
市街展望

山口高等商業、山口中學、鴻城中學等
春日山

先賢堂 こゝから縣立山口高等女學校展望、
大典記念山口博物館（内部觀覽所要時間約三十分）
維新記念館

大典記念山口圖書館 こゝの門前で再び自動車へ乗る
山口市公會堂
山口縣廳

山口城舊址、舊城内及び遺渠
多賀神社

武德殿
赤十字社山口支部

山口育兒院
洞春寺

香山園 こゝで自動車を降りて露山堂以下五重塔等を徒
歩見物する所要時間約十五分。

露山堂

勅撰銅碑

毛利家墓地

瑠璃光寺 こゝから雲谷庵、俊龍寺を遠望

五重塔

後河原柳と櫻 伊勢橋々上より眺望

築山神社

八坂神社

築山館址

管絃松遺址

豊後石

市川元教墓

野田神社

豊榮神社

神福寺

今八幡宮

歩兵第四十二聯隊兵營

赤十字病院

ザベリヨ記念碑

三ノ宮仁壁神社

長谷觀音 これは自動車中から遠望に止める。

常榮寺

傳雪舟庭

寺内元帥墓地

櫻圃寺内文庫

朝鮮館

善生寺（舊稱周慶寺）

古熊神社 これも車中から遠望

東山の翠色

猿林曉月

東方便山遠望

山口驛 これから今市を上つて大通を下る、今市角で山

口大通の景觀を一瞥する。驛通に山口地方裁判所がある。

本國寺

長壽寺

圓龍寺

井上侯遭難記念碑

袖解橋

刑務所

龍泉寺

高田公園

以上

第二一案

第二案は史蹟山口の探勝を志す人達の爲に編まれる。大体は第一案通りであるがそれに更に次の諸項を追加するのである

縣廳——多賀神社間に左の三名勝史蹟を加へる、

但し徒歩所要時間約一時間。

高嶺神社（舊稱山口大神宮）

法泉寺址

鏡ヶ池

天然紀物栢の巨木

白糸瀧、梅峰瀧

大内政弘墓及傳師成親王墓

法泉寺奥に柳の清水があるが之は見物を略すがよい

赤十字病院——ザベリヨ記念碑間に左の一項を加

へる。但し徒歩、所要時間約十五分

龍福寺

寺内文庫——周慶寺間に左の三項を加へる。但し徒歩、所要時間約一時間

陸軍戀路射的場

石佛碑

清水寺

山口驛——本國寺間に左の項目を加へる。但し三田尻山口間省營バス乃至貸切自動車を利用し得る所要時間往復約一時間半乃至二時間。

鰐石重岩

象頭峯

上田鳳陽先生碑

御掘外郎屋

農事試験場

縣立育成學校

乘福寺

上田鳳陽墓

氷上山興隆寺及妙見宮

氷上橋

面貌山

泰雲寺

鳴瀧

禪昌寺

高田公園の次に左の二項を加へる。但し市内乗合自動車及タクシー利用、所要時間往復約二時間。

龍藏寺

吉敷瀧

赤田神社

以上

貸切自動車による各種賃銀表

市内一回のみ貸切 金八十錢均一

第一案による賃金(所要時間約三時間)約三圓内外

第二案による賃金(所要時間約十時間)約六圓内外

山口、秋芳洞間賃金

所要時間 片道約二時間 往復約五時間 約六圓内外 約八圓内外

山口、秋間賃金

所要時間 片道約三時間 往復約六時間 約九圓—十五圓

但し往復賃金の中には秋芳洞の場合は觀覽待合賃金を萩行の場合には萩の史蹟一巡の賃金をも含んで居る。尙萩往復の時は同時に秋芳洞に立よることができ。その場合も賃金は同じである。

時間制貸切自動車協定賃金 一日(六時間) 二圓 一日(十二時間) 十八圓

山口、三田尻間 所要時間約四十分 四圓五十錢

山口、小郡間 所要時間約二十分 三圓

市内外乗合自動車賃金表

市内乗合 十錢均一

但湯田、宮野間乗合自動車賃金は市内は十錢均一なれど市内市外に連絡の場合は五錢乃至十錢増。

山口小郡間 四十錢

山口萩間 二圓

驛名	山	鰐石橋	御堀	氷上	下矢田	上矢田	鳴瀧	下鯖山	勝坂	右田	防府新橋	宮市
三田尻	54	51	48	48	45	42	33	27	15	9	9	5
宮市	51	51	48	45	42	39	30	24	12	9	6	
防府新橋	48	45	42	42	39	36	27	21	9	5		
右田	45	42	39	39	36	33	24	18	6			
勝坂	42	39	36	33	33	30	21	15				
下鯖山	27	27	24	21	18	15	6					
鳴瀧	24	21	18	15	15	9						
上矢田	15	12	9	6	6							
下矢田	9	9	6	5								
氷上	9	6	5									
御堀	6	5										
鰐石橋	5											

山口より各主要地への汽車賃金表

(但之は三等、従つて二等賃金はこの倍額)

行先地	賃金	行先地	賃金	行先地	賃金
小郡	二圓	島田	一圓九錢	吉則	一圓七錢
下關	一圓二錢	柳井	一圓四錢	長門湯本	一圓三錢
三田尻	四九	岩國	一圓九錢	正明市	一圓四錢
富海	六〇	長門峽	三二	萩	一圓七錢
徳山	八九	徳門	六〇	岐波	一圓五錢
虹ヶ濱	一一三	須佐	一六二	宇部	六〇

美由岐松	198
名物瓜	131
妙喜寺	83
●妙壽寺	84
モ	
毛利氏館址	46, 156
毛利氏山口移鎮	46
毛利氏湯田邸	24
毛利元就	85
毛利元徳	46
毛利敬親	51
毛利隆元	39, 85
毛利輝元	100
毛利秀元	57
師成親王	47
師成親王御墓所傳説地	51
ヤ	
八坂神社	14
柳澤監物元政	38
柳の水	21
八幡燒	209
山口	3
山口育兒院	168
山口衛戍病院	172
山口驛	154
山口營林署	160
山口御茶屋	18

山口開府	5
山口瓦斯株式會社	173
山口簡易保險健康相談所	160
山口祇園祭	222
山口供託局	159
山口區裁判所・同檢事局	159
山口刑務所	159
山口警察署	156
山口縣廳	156
山口縣教育會館	190
山口縣工業試驗場	158
山口縣師範學校	164
山口縣電氣局	157
山口縣農會	161
山口縣農事試驗場	159
山口縣立育成學校	167
山口縣立教育博物館	170
山口縣立山口圖書館	168
山口憲兵分隊	171
山口建設事務所	154
山口高等學校	163
山口高等女學校	166
山口高等商業學校	162
山口國學院	166
山口三名水	21
山口氏	5
山口市役所	174
山口市魚市場	179
山口市會	174
山口市救護所	176
山口市公會堂	162

山口市公設市場	175
山口市商工會	175
山口市職業紹介所	177
山口市農會	175
山口市の教育	177
山口市の上下水道	178
山口市の財政	175
山口市屠場	179
山口市立傳染病院	178
山口市立無料診療所	176
山口四境關	61
山口十境詩	27
山口女子高等實業學校	167
山口線	154
山口地方裁判所・同檢事局	159
山口地名考	3
山口中學校	165
山口電氣出張所	158
山口訛	219
山口本	205
山口燒	211
山口郵便局	159
山口聯隊區司令部	171
ユ	
湯田	23
湯田驛	154
湯田御茶屋	24
湯田溫泉	23, 201
湯田溫泉株式會社	203
湯田溫泉公衆浴場	202
湯田溫泉の諸傳説	107

湯田吸	22
湯田の溫泉旅館	202
ヨ	
吉光長者すくも塚	60
鎧ヶ峠	65
ラ	
郎君城	73
リ	
了菴桂梧	35
●凌雲寺	61
●龍華院	81
龍泉寺	110
龍泉寺	22
龍藏寺	61
龍藏寺傳説	120
龍福寺	15
臨海院傳説	124
琳聖太子	69, 70
ル	
瑠璃光寺	41
瑠璃光寺五重塔	187
レ	
練兵場	172
ロ	
露山堂	45
ワ	
鰐石	18
鰐石生雲	18

茶白山古墳	58
重石	198
●澄清寺	82
●長壽寺	20
長壽寺	20
長周銀行山口支店	173
趙秩一可庸	28
勅撰毛利敬親偉勳銅碑	186

ツ

築山神社	13
●築山大明神	13
築山の怪	114
築山館	11
月見松	118
筑紫の瀑	194
鼓の瀑	194
つるし柿	217

テ

出合のボート	196
寺内公園	199
寺内元帥墓地	172
寺内文庫	170
天開圖書樓	35
天與清啓	34

ト

洞春寺	42
唐人小路	37

ナ

内藤興盛	29
内藤隆世	32, 67
長門峽	229
中村高等女學校	167
長山城址	57
七尾山古城址	36
鳴瀧	189, 197
南明秋興	74

ニ

仁壁神社	87
二義少年清介角左の事蹟	142
錦小路頼徳卿	23
錦小路頼徳卿墓及碑	191
虹橋	38
虹橋跨水	38
日露戦役記念砲臺	184
仁保八幡宮	80
日本勤業銀行山口支店	173
日本赤十字社山口支部	161
日本赤十字社山口支部病院	178
仁平寺	75

ノ

野田高等女學校	167
---------	-----

ハ

梅峯瀑	50
梅峯飛瀑	50

萩!水郷萩	233
萩の薫	215
萩藩舊記録	169
怪猫傳説	135
泊瀬晴嵐	87
泊瀬寺	86
泊瀬寺國寶檀造觀音	133
判の瓜	132
馬場殿小路	16

ヒ

氷上	69
氷上山神事能	104
氷上妙見社二月會	104
氷上社妙見大菩薩	72
氷上滌暑	69
姫山城址	67
姫山傳説	92
關雲寺	78
百十銀行山口支店	173
日吉神社	65
兵部卿師成親王	66
平川村の大杉	198
平清水八幡宮	67

フ

福田外郎屋	196
二つ堂の梅	187
藤の下水	21
フランセスコ・サベリヨ	3)
古熊公園	189

古熊神社	29
豊後石	115

ヘ

平蓮寺山	53
------	----

ホ

法界寺	16
法界寺の大銀杏	188
●保壽寺	53
●法泉寺	47
法泉寺横柏	190
防長史談會	169
防長先賢堂	169
防長木炭同業組合	161
方便山	195
方便山黄金馬傳説	93
法明院	82
細川幽齋	20
歩兵第四十二聯隊	171
歩兵第廿一旅團司令部	171
本國寺	19
梵良彦明	53

マ

益田就高	142
饅頭石傳説	128
饅頭坂(仁保村)	129
右田弘詮	41
水無川傳説	127
宮野驛	155

ケ

桂菴玄樹 34
 契沖阿闍梨 169
 源久寺 80

コ

香山墓所 44, 185
 ●香積寺 39
 香積寺三重韻 40
 鴻城 56
 鴻城實踐中學 165
 鴻城中學校 165
 ●高藏寺 66
 廣澤寺 28
 鴻の峰 56, 101, 189
 高嶺城址 56
 高嶺常夜燈の神祕 101
 高麗版大般若經 29
 興隆寺 70
 ●國清寺 42
 古城岳 39
 コスモ神父 31
 小槻官務 22
 言延覺書 46
 戀路の起源 130
 御廟野 51
 小菜の瀧 195
 近藤裁縫傳習所 167

サ

相良武任 17
 相良正任 17
 相良杜 17
 策彦周良 24, 49
 鷺の舞 221
 鷺流狂言 220
 鯖山 77
 鯖山隧道 198
 百日紅公園 189
 猿林曉明 27
 三條實美 25, 71

シ

舌鼓 215
 志多利八幡宮 75
 七卿遺蹟之碑 200
 七卿西竄 25, 71
 ●周慶寺 30
 俊龍寺 38
 常榮寺 85
 ●勝音寺 52
 嘯岳鼎虎 42
 障子岳 59
 松雪軒全果 34
 乘福寺 73
 ●正法寺 54
 ●正方寺 29
 松緑燒 210
 白絲瀑 50

調杜 64
 眞光院 70
 神光寺 33
 ●眞如寺 84

ス

瑞陽寺燒 216
 崇光院宮 47, 52
 陶氏出屋敷 18
 陶弘房 41
 陶晴賢 49
 杉重輔 32
 須佐十二景詩 241, 242, 243
 須佐灣 241
 周防明倫館 17, 163
 周布政之助碑 184

セ

清介・角左衛門 141
 聖フランシスコ・サベリヨ記念碑 188
 石屋眞梁 41, 78
 石佛碑由來 146
 石屏子介 39
 關屋 61, 64, 77, 81
 雪舟 34
 雪舟庭 86, 189
 禪昌寺 78
 善生寺 30
 ●善福寺 18

ソ

宗祇 12
 象頭山 26
 象峰積雪 26
 袖解橋 21
 尊觀法親王 19

タ

大一菴 19
 泰雲寺 79
 大圓智碩 54
 ●大藏院 39
 ●大通院 52
 ●大道寺 30
 大日本武徳會山口支部・武徳殿 161
 大林寺 60
 高倉荒神 66
 多賀神社 46
 高田園 199
 高田御殿 25, 199
 高橋右延 46
 高嶺城址 56
 高嶺神社 55
 高嶺太神宮 55
 竹田の番匠 124
 達理山 96
 平子重經 80
 多聞寺 74

チ

竺源惠心 85

趣味の山口索引

(●印ハ廢ノ略符、即●永興寺ハ廢永興寺ナリ)

ア	
愛國婦人會山口支部子供の家	161
青海島と須佐瀨	239
赤田神社	61
赤妻古墳	60
秋芳洞と秋吉臺	237
朝倉八幡宮	59
朝田神社	64
淺地瀑	198
足利義植	33, 46, 110
イ	
惟參周省	53
一坂銀	98
一本松	22
糸根峠	65
犬鳴瀑	198
井上公園	199
井上侯舊邸	199
井上侯遭難之地	194
今井似閑	169
今八幡宮	32
今山の三本松	197
岩川	81
ウ	
外郎	241
上田鳳陽	17, 162
後河原の櫻と柳	188
宇多川備後守	96
梅羊羹	216
雲谷菴	36
雲谷軒	34
雲谷派	36
エ	
●永興寺	26
永福寺	27
惠鳳藏主	20, 34, 39
役の行者小角	120
オ	
大内 縣	4, 69
大内 氏	5, 11
大内 氏 衙門	11
大内 重弘	73
大内 多々羅軍記	140
大内 輝弘	57, 65
大内 人形	212
大内 塗	207, 208
大内 介	4
大内 教弘	83
大内 教幸	28
大内 版三韻一覽	206
大内 版法華經板木	72
大内 弘幸	26
大内 弘世	5

大内本	205	河童傳説	126
大内政弘	16, 48, 51	金山谷銀山	96
大内滿世	16	華浦銀行山口支店	73
大内持盛	52	龜井南冥須佐十二景詩	241, 242, 243
大内持世	83	龜山	57
大内盛見	40, 42, 78	龜山園	182
大内義興	33, 61	龜山園六銅像	183
大内義隆	15, 31, 40, 49, 137	龜山傳説	99
大内義長	56	キ	
大内義弘	39, 78, 135	其阿上人	19
大歳村競馬場	199	祇園會	222
大庭可樂	212	祇園社	14
櫻圃寺内文庫	173	木戸公恩澤碑	190
大町	16	木町公園	187
小鮎八幡宮	77	行啓記念山口縣立山口圖書館	168
兄弟山	191	岐陽方秀	20
隴の清水	21	逆修碑	96
面貌山由來	104	清水寺	82
温泉春色	24	清水晚鐘	82
カ		切畑山	96
外國館	37	金花山	74
怪猫傳説	135	金鷄傳説	134
可易	20	金鷄の瀑	187
何遠亭	25, 199	●金籠	41
鏡ヶ池の傳説	135	ク	
覺隱永本	78	熊野公園	190
角左衛門	141	熊野神社	108
●覺雄寺	58	來島又兵衛碑	184
重ね岩	18, 196		
春日山公園	185		

5
4

商標

登録



町市中口山

製謹堂陰山

番六九一一八阪大替振 番九〇一話電
番八三六七關下

595
402

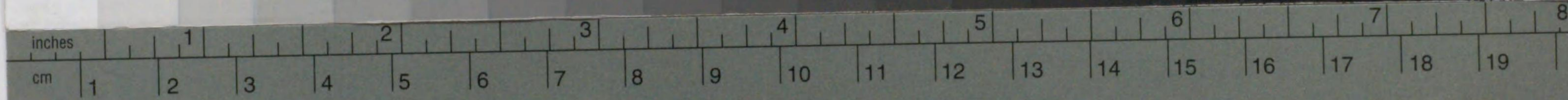


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

